

吾妻重二 編

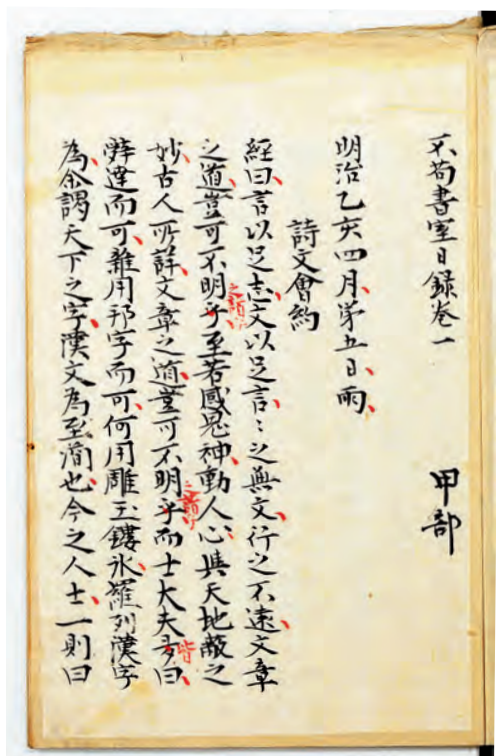
関西大学泊園文庫

白筆稿本目録稿（甲部）

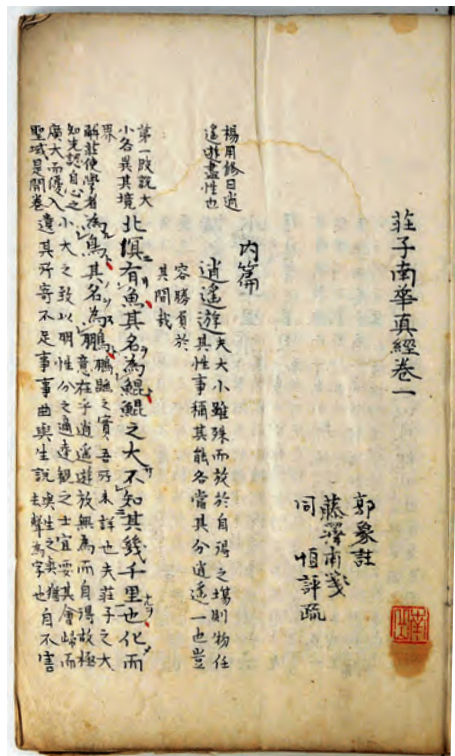
関西大学アジア文化研究センター



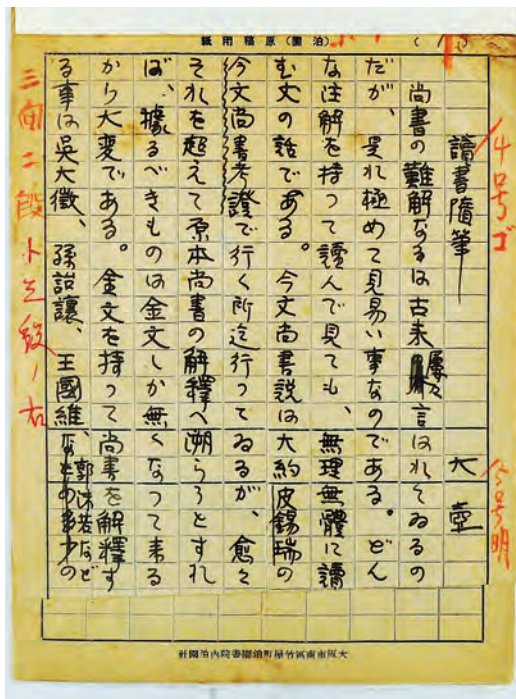
藤澤東畎「祭南郭服先生文」（『東畎文稿』所収）
〔LH2／甲3〕



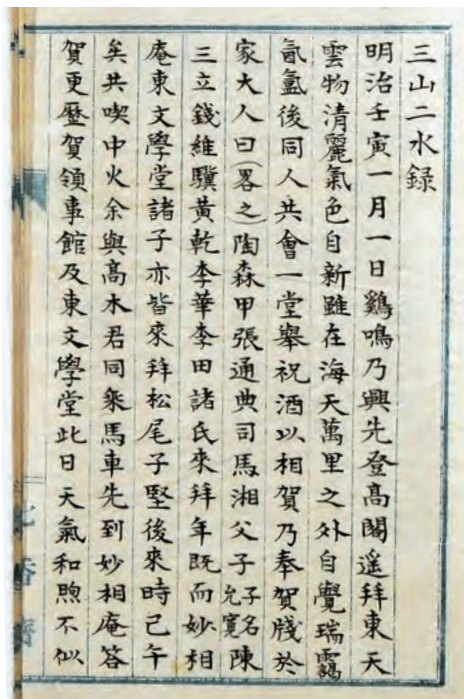
藤澤南岳『不苟書室日録 甲部』
〔LH2／甲206-1〕



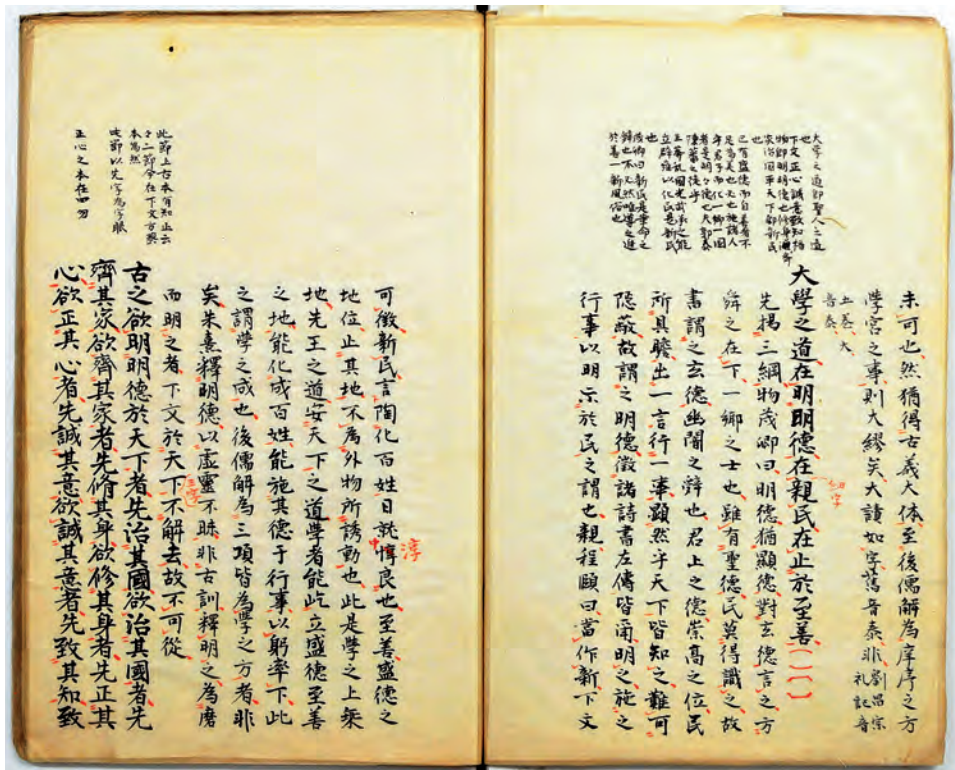
藤澤東畎 藤澤南岳評疏『莊子南華真經箋疏』
〔LH2／甲103-1〕



石濱純太郎「讀書隨筆」原稿
[LH2/甲196]



藤澤黄鵠『三山二水録』
[LH2/甲163]



藤澤黄鵠『大学註疏』
[LH2/甲180]

はしがき

このたび関西大学総合図書館に蔵するコレクション「泊園文庫」^{はくえん}の自筆稿本を調査整理したので、その目録の一部を刊行することとした。

泊園文庫は江戸時代後期の文政八年（一八二五）、四国讃岐の儒者藤澤東咳^{とうがい}が大阪に開いた漢学塾「泊園書院」の蔵書であり、書院が東咳の子南岳^{みながく}、南岳の子黄鵠^{こうく}・黄坡^{こうは}、黄坡の義弟石濱純太郎によって昭和の終戦を迎えるまで長く維持されたことはよく知られるところであろう。そして昭和二十六年（一九五二）、その蔵書が黄坡の子で小説家として活躍した藤澤桓夫^{たけお}の厚意により本学に泊園文庫として寄贈された。この泊園文庫の一般書籍すなわち刊本については、すでに昭和三十三年（一九五八）、『関西大学泊園文庫蔵書書目』が本学出版部より刊行されているものの、自筆稿本についてはこれまで整理が成っていないのであったのである。

さて、ここにいう自筆稿本は、三つの部分に分かれる。

- ・ 甲部 東咳、南岳、黄鵠、黄坡、石濱純太郎の手稿本
- ・ 丙部 他の学者文人の手稿本、門人帳など
- ・ その他 書簡、他の書籍、文書資料など

ここに刊行したのはこのうちの甲部に関する目録である。甲部の所蔵資料は全二二四点で、合計五百二十六冊・軸物五点にのぼり、東咳、南岳、黄鵠、黄坡、石濱純太郎の泊園書院における著述活動の姿を今に伝える貴重な資料群となっている。

自筆稿本の整理は、かつて昭和四十九年（一九七四）から十年間ほど本学図書館非常勤嘱託を勤められた肥田皓三先生（のち関西大学文学部教授）の手で始められ、そのほとんどすべてにわたって簡潔な書誌メモが残された。そのメモは今回の目録作成にあたって大いに参考にさせていただいたところである。また図書館職員の鵜飼香織氏、本学非常勤

講師の城山陽宣氏の協力を得ることもできた。この場を借りて感謝申し上げたい。

作業にあたってはおおむね一般的な目録作成の方法に従ったが、甲部の特性にかんがみて次のようにした。

- 一、ほとんどすべてが手稿本、すなわち写本であるため「写本」という表記はしなかった。
- 二、装訂はおおむね大和綴じなどの仮綴じであるため装訂の項は設けず、洋装本など特別な場合にのみ備考欄に記した。
- 三、大部分が漢文による著述であることから、特に「漢文」という表記はせず、和文の場合にのみ「和文」と記した。
したがって、文体に関して何も表記がなければ漢文で書かれているということである。
- 四、備考欄に当該資料の内容や、資料内に残される挟み物について記した。
- 五、□□以下は本学総合図書館の請求記号（整理番号）である。

*

泊園書院は近世から近代、大阪における学問教育の一大中心として栄え、その蔵書は日本漢学や大阪文化の宝庫といえる。また、丙部その他の部類には泊園書院の門人帳や書簡類が数多く含まれており、甲部に勝るとも劣らない貴重資料となっている。これら自筆稿本類は先般、大学院生たちの協力によりすべて画像データを撮り終え、現在、その目録作成を含めアーカイヴズ化を進めているところである。当文庫の全目録作成や画像公開についても目下準備中であり、今後とも大方のご支援をお願いする次第である。

二〇一二年三月十七日

吾妻重二

* 本稿は二〇一一年度、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」によって本学東西学術研究所内に設立された「アジア文化研究センター」における研究成果の一部である。

関西大学泊園文庫 自筆稿本目録稿 (甲部)

易纂 二冊一帙 藤澤東畎著 藤澤東畎筆 LH2/甲1-1-1-2

〔葉数〕 一冊目三十四葉 二冊目四十葉

〔内題・外題〕 内題なし 書き題簽「東畎先生手澤 易纂 一(一)」

〔藏書印〕 第一冊巻頭と第二冊巻頭に「泊園書院文庫」印

〔備考〕 表紙の「泊園文庫」ラベルに「甲 書目 易纂 冊数二、一(二、二)」とあり 句点 欄外貼り付け、書き入れ多し 題簽「東畎先生易纂」の帙に収む

辨非物 一冊一帙 藤澤東畎著 藤澤東畎筆 LH2/甲2

〔葉数〕 九十七葉 (墨付九十六葉)

〔内題・外題〕 内題「辨非物」 書き付け外題「辨非物」

〔藏書印〕 巻頭に「泊園書院文庫」印 巻末に「泊園書院」印

〔備考〕 表紙の「泊園文庫」ラベルに「書目 辨非物 冊数二」とあり 句点 欄外書き入れ多し 奥書あり 題簽「辨非物」の帙に収む

東畎文稿 十一冊二帙 藤澤東畎著 藤澤東畎筆 LH2/甲3-13

〔葉数〕 一冊目四十六葉 二冊目五十葉 (墨付二十三葉) 三冊目四十三葉 (墨付四十一葉) 四冊目四十七葉 五冊目四十八葉 六冊目四十五葉 七冊目五十葉

(墨付二十六葉 八冊目四十三葉 (墨付四十二葉) 九冊目四十七葉 (墨付四十四葉) 十冊目五十八葉 (墨付五十六葉) 十一冊目四十九葉 (墨付四十五葉)

〔内題・外題〕 内題なし 外題なし

〔藏書印〕 一冊目巻末に「東畎」印 三冊目以下に「泊園書院文庫」および「泊園文庫」印あり

〔備考〕

一冊目 表紙左下に「巻四」の書き付け、表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 冊数八ノ四」

二冊目 表紙に左下に「巻五」の書き付け

三冊目 表紙左に「手録 巻六」の書き付け、表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 書目 東畎先生手録 冊数八ノ六」とあり

四冊目 表紙左下に「巻八」の書き付け、表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 書目 東畎先生手録 冊数八ノ八」とあり

五冊目 表紙左下に「巻九」の書き付け、第二葉冒頭に「泊園文稿」とあり

六冊目 表紙左下に「巻十二」の書き付け、表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 冊数八ノ一」とあり、中山城山「黃庭内景經略注」等収む

七冊目 表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 冊数八ノ五」とあり、「茶式」「履軒古韻」等収む

八冊目 表紙左下に「十二」の書き付け、表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 冊数八ノ七」とあり、「調絃入弄」等の楽律関係覚書、「分潮揚楊君墓碑銘」「徠徠先生贊」「江月琴記」等の草稿を収む

九冊目 表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 冊数八ノ六」とあり、『論語』八

佾篇「子曰夷狄之有君章」の注、「御所關東被仰入付趣写」(和文)、「安政四年丁巳冬 水戸中納言様上表」(和文)、「亜墨利使節関東登城之御被」(和文)、「上書」(和文) 等を含む

十冊目 見返しと第一葉の間の「泊園文庫」ラベルに「冊数八ノ一」とあり、「本藩號令」「軍令」「諸使番並姓名」(いずれも和文)を含む

十一冊目 内題に「泊園雜記」とあり、「大學私考」、年号「嘉永」の出典、「御觸書之寫」(和文)、「清明軍談目録」、「天保十二年辛丑諸大名御觸之寫」(和

文)、「琉球貢使行伍姓名」(天保三年十月)、「疫病除藥方」等の覚書
墨筆による訂正多し

一冊目から七冊目は題簽「東咳文稿 上」の帙に収む 八冊目から十一冊目は
題簽「東咳文稿 下」の帙に収む

泊園文稿 三冊一帙 藤澤東咳著 抄写者未詳

LH2/甲14-1~14-3

〔葉数〕一冊目七十四葉(墨付七十三葉) 二冊目八十二葉(墨付七十二葉) 三冊
目六十八葉(墨付六十四葉)

〔内題・外題〕内題「泊園詩稿」 書き付け外題「泊園文稿 卷一(卷二)(卷三)」

〔藏書印〕一冊目表紙に「堅齋」印

〔備考〕精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「泊園文稿」の帙に収む

泊園詩稿 一冊一帙 藤澤東咳著 藤澤東咳・南岳筆

LH2/甲15

〔葉数〕四十八葉(墨付四十三葉)

〔内題・外題〕内題「泊園詩稿」 書き題簽「泊園詩稿」

〔藏書印〕巻頭に「甫印」印

〔備考〕朱墨書き入れ 題簽「泊園詩稿」の帙に収む

東咳日記 一冊一帙 藤澤東咳著 藤澤東咳筆

LH2/甲16

〔葉数〕四十八葉(墨付十二葉)

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕横小本 文政七年一月及び二月、同八年三月の記録 句点 墨筆による書
き入れあり 題簽「東咳日記」の帙に収む

東咳先生稿本 一冊 藤澤東咳著 藤澤東咳筆

LH2/甲17

〔葉数〕二十葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「東咳先生稿本」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕朱熹「讀余隱之尊孟辨」を論ず 朱点 朱墨書き入れ 題簽「東咳先生稿
本」の帙に収む

大阪北邸朝宿館棟碑文 一冊 藤澤東咳著 藤澤東咳筆

LH2/甲18

〔葉数〕三葉

〔内題・外題〕内題「大阪北邸朝宿館棟碑文」 書き付け外題「大阪北邸朝宿館棟碑
文」

〔備考〕朱点 精写本 末尾に「嘉永三年庚戌夏五月上浣 恩俸生 藤澤甫謹撰」
とあり 朱点 墨筆書き入れ 題簽「東咳先生稿本」の帙に収む

東咳詩存 一冊一帙 藤澤東咳著 藤澤南岳筆

LH2/甲19

〔葉数〕六十九葉

〔内題・外題〕内題「東咳詩存」 外題なし

〔藏書印〕裏表紙に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 朱点 朱墨書き入れ 第一葉裏に朱書きのある貼り付けあり 附
箋多し 題簽「東咳詩存」の帙に収む

泊園文稿 八冊一帙 藤澤東咳著 抄写者未詳

LH2/甲20-1~20-8

〔葉数〕一冊目四十二葉(墨付四十葉) 二冊目三十七葉 三冊目五十八葉 四冊目
三十六葉 五冊目三十七葉 六冊目四十六葉 七冊目四十六葉 八冊目五十二
葉

〔内題・外題〕内題「泊園文稿」 書き題簽「泊園文稿 金(石)(絲)(竹)(匏)

(土)(革)(木)」

〔備考〕精写本 明治十七年四月刊『東咳先生文集』の浄書稿本 六冊目第八葉裏
と第九葉表の間に挟み物あり、「物夫子真蹟記」と題する草稿 句点 書き入れ

題簽「泊園文稿」の帙に収む

七香齋文叢 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲21

〔葉数〕七十九葉（墨付七十四葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋文叢」書き題簽「七香齋文叢 序」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文叢」の帙に収む

七香齋文叢 三冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲22-1~22-3

〔葉数〕一冊目四十九葉（墨付四十七葉） 二冊目六十葉（墨付五十八葉） 三冊目

六十四葉（墨付六十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋文叢 一（一）（二）（三）」

〔備考〕精写本 句点 返点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文叢」の帙に収む

七香齋文雋 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄坡筆力 LH2/甲23

〔葉数〕五十七葉（墨付五十五葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋文雋」書き付け外題「七香齋文雋 完」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 大正三年六月刊『七香齋文雋』の浄書稿本であろう 精写本 朱

点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文雋」の帙に収む

七香齋秘笈 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鶴筆力 LH2/甲24-1~24-2

〔葉数〕一冊目五十一葉 二冊目四十四葉

〔内題・外題〕内題「七香齋餘筆」（一冊目）、「七香齋秘笈」（二冊目） 書き付け外

題「七香齋秘笈 一（一）」

〔藏書印〕一冊目の卷末と二冊目の卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 一冊目「七香齋餘筆」には「文字談」「論戰新詠」「探玉藥事」を

収む 二冊目「七香齋秘笈」には「遊履餘痕」「探奇小録」を収む 朱点 朱墨
書き入れ 題簽「七香齋秘笈」の帙に収む

南岳先生撰文墓碣銘集 一冊一帙 藤澤南岳著 抄写者未詳 LH2/甲25

〔葉数〕八十一葉（墨付四十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕二十七家の墓碑文を収む 精写本 句点 朱墨書き入れ 題簽「南岳撰文

墓碣銘」の帙に収む

七襄録 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲26-1~26-2

〔葉数〕一冊目二十四葉（墨付十九葉） 二冊目三十八葉（墨付二十葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七襄録」

〔備考〕二冊目表紙外題下に「地誌」とあり 様々な覚書を集めたもの 題簽「七

襄録」の帙に収む

起草 五冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲27-1~27-5

〔葉数〕一冊目三十八葉（墨付三十七葉） 二冊目三十葉（墨付二十葉） 三冊目十

七葉（墨付二葉） 四冊目三十二葉（墨付二十四葉） 五冊目十七葉（墨付八葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「起草」

〔藏書印〕四冊目の卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕草稿・覚書集 一冊目表紙に「戊申」「七月」と小字書き付けあり 四冊目

の外題「七輯起草」を朱にて「九々幾草」と訂正す 五冊目の外題「九九幾起

草」一冊目の第十六葉裏と第十七葉表の間に挟み物あり、「疾壽不貳」と題す

る追悼文 五冊目の第三葉裏と第四葉表の間に明治四十年二月刊『遊履餘痕』

の小片の正誤表「遊履餘痕正誤」を挟む 題簽「起草」の帙に収む

起草 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲28-1~28-2

〔葉数〕一冊目三十八葉（墨付三十六葉） 二冊目七十九葉（墨付六十九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「起草」

〔藏書印〕二冊目の巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕横小本 一冊目の表紙に「大正乙卯四月」の書き付け 題簽「起草」の帙に収む

壽客叢録 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆力

LH2/甲29

〔葉数〕四十二葉

〔内題・外題〕内題「壽客叢録」 外題なし

〔藏書印〕第一葉の裏に「大久保」「利武」印 巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕扉に「晩香」、その裏に「利武」と書き付けあり 精写本 句点 返点 朱墨書き入れ 大正四年十二月刊『壽客叢録』の浄書稿本であろう 題簽「壽客叢録」の帙に収む

醉世九劑 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲30

〔葉数〕五十葉

〔内題・外題〕内題「醉世九劑」 書き付け外題「醉世九劑」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕和文 精写本 朱点 朱墨書き入れ 大正四年四月刊『醉世九劑』の稿本 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

醉世九劑 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2/甲31

〔葉数〕四十二葉（墨付四十葉）

〔内題・外題〕内題「醉世九劑」 書き付け外題「醉世九劑」

〔備考〕和文 精写本 朱点 朱墨書き入れ 大正四年四月刊『醉世九劑』の浄書稿本であろう 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

發揮九範 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲32

〔葉数〕二十一葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「發揮九範」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕大正八年四月刊『發揮九範』の草稿 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

發揮九範 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳等筆

LH2/甲33

〔葉数〕二十四葉

〔内題・外題〕内題「發揮九範」 書き付け外題「發揮九範」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕『發揮九範』の浄書稿本 精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

真珠九疇 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲34

〔葉数〕二十一葉

〔内題・外題〕内題「真珠九疇」 書き付け外題「真珠九疇」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕大正七年四月刊『真珠九疇』の浄書稿本であろう 精写本 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

知音九奏 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2/甲35

〔葉数〕二十七葉

〔内題・外題〕内題「知音九奏」 書き付け外題「知音九奏」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本「慶賀部」「飲宴部」「寄贈部」「酬和部」「尋訪部」「送別部」「題詠部」「次韻部」「聯句部」に分ち、知友が南岳に寄せた漢詩を収載する 題簽「醉

世九劑・發揮九範」の帙に収む

大東宝訓 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲36

〔葉数〕十葉

〔内題・外題〕内題「大東宝訓」書き付け外題「大東宝訓」

〔備考〕明治四十四年十月刊『七輯』所載「大東宝訓」の原稿 精写本 墨筆による書き入れあり 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

一以貫之 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲37

〔葉数〕十葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「一以貫之」

〔備考〕経書から「一」の字のある章句を蒐録したもの 精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

韻語抄 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲38

〔葉数〕七葉

〔内題・外題〕内題「韻語抄」書き付け外題「韻語抄」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

徳目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲39

〔葉数〕十三葉（墨付九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「徳目」

〔備考〕道徳に関する語を列挙した簡単な覚書 朱墨書き入れ 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

古言摘録 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲40-1~40-2

〔葉数〕一冊目六十五葉（墨付五十二葉）二冊目六十一葉（墨付四十四葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「古言摘録 一（一）」

〔備考〕一冊目表紙の外題右に「名言九韵」（朱筆）「七香齋餘筆之一」（墨筆）とあり 中国の古言を五十音順に抄録し、意味（和文）と出典を双行注で示す 墨筆による書き入れ 題簽「名言九韵」の帙に収む

本朝學原浪華鈔 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲41

〔葉数〕十一葉

〔内題・外題〕内題「本朝學原浪華鈔」書き付け外題「本朝學原浪華鈔」

〔備考〕精写本 書き入れあり 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

坐右書篋 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲42

〔葉数〕十二葉（墨付二葉）

〔内題・外題〕内題「坐右書篋」書き付け外題「坐右書篋」

〔備考〕座右の書函に収めていた書目十一点を記した覚書 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

新撰月令 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲43

〔葉数〕二十二葉

〔内題・外題〕内題「新撰月令」書き付け外題「新撰月令」

〔備考〕一月から十二月までの各月につき「名数」「氣候」「公典」「旧儀」等の表現を摘録したもの 精写本 墨筆による書き入れ 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

七香齋叢書 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲44

〔葉数〕五十葉（墨付十葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋叢書 下」
 〔備考〕「蘭馨録」「家譜稿」「七香譜」「濯錦餘」よりなる 題簽「七香齋雜筆」の
 帙に収む

稗教叢書目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲45

〔葉数〕二十八葉（墨付八葉）
 〔内題・外題〕内題「稗教叢書目」 書き付け外題「微古逸事」
 〔備考〕泊園書院における教育関連の書目 末尾に「以上既在泊園文庫」という 題
 簽「七香齋雜筆」の帙に収む

藝圃能事 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲46

〔葉数〕二十五葉
 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「藝圃能事」
 〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印
 〔備考〕「名言抄」その他からなる 朱墨書き入れ 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

賞心清事 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲47

〔葉数〕三十葉（墨付八葉）
 〔内題・外題〕内題「賞心清事」 書き付け外題「賞心清事」
 〔備考〕「七」と「九」を用いた漢語を集録した覚書 朱点 墨書による書き入れ
 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

史閣雜錄 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲48

〔葉数〕十八葉（墨付十六葉）
 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「史閣雜錄」
 〔備考〕讃岐関連資料に関する覚書 朱墨による訂正あり 題簽「七香齋雜筆」の
 帙に収む

地名考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲49

〔葉数〕十九葉（墨付十四葉）
 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「地名考」
 〔備考〕日本の地名について記した覚書 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

古紙考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲50

〔葉数〕二十七葉（墨付二葉）
 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「古紙考」
 〔備考〕『古事類苑』からの抜粋 題簽「古紙考 古墳考 外」の帙に収む

古墳考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲51

〔葉数〕十九葉（墨付一葉）
 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「古墳考」
 〔備考〕四つの古墳に関する覚書 題簽「古紙考 古墳考 外」の帙に収む

霜葉考 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲52

〔葉数〕五十三葉（墨付二十三葉）
 〔内題・外題〕内題「霜葉考」 書き付け外題「霜葉考」
 〔備考〕「霜葉考」、暦表、「韻雅分配」よりなる覚書 紅葉の図あり 題簽「霜葉
 考」の帙に収む

楓譜 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲53

〔葉数〕二十八葉（墨付二葉）
 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「楓譜」
 〔備考〕紅葉の図あり 題簽「古紙考 古墳考 外」の帙に収む

詠史詩纂 一冊 藤澤南岳評閲 藤澤黃鶴纂註 藤澤南岳筆 〔葉數〕七葉 〔内題・外題〕内題「詠史詩纂」書き付け外題「詠史詩纂」 〔備考〕邦人の漢詩について評閲と纂註を加える 墨筆による書き入れ多し 題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲54
詠史詩纂 一冊 藤澤南岳評閲 藤澤黃鶴纂註 藤澤南岳筆 〔葉數〕二十葉 〔内題・外題〕内題「詠史詩纂」書き付け外題「詠史詩纂」 〔備考〕精写本 朱点 墨筆による書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲55
詠史詩選 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕十五葉（墨付八葉） 〔内題・外題〕内題「詠史詩選」書き付け外題「詠史詩選 一」 〔備考〕精写本 欄外書き入れ多し 題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-1
詠古詩選初稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕六十四葉（墨付二十八葉） 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠古詩選初稿」 〔備考〕題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-2
詠史詩纂原稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕十五葉 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史詩纂原稿 貳」 〔備考〕題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-3
詠史選古体初稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕二十七葉（墨付二十六葉） 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史選古体初稿 参」 〔備考〕題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-4
詠史詩纂目録 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕十三葉 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史詩纂目録」 〔備考〕朱墨書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-5
日本詠史詩選目録 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕二十一葉（墨付十八葉） 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「日本詠史詩選目録 二」 〔備考〕欄外書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-6
日本詠史詩 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕十四葉（墨付十三葉） 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「日本詠史詩」 〔備考〕目録のみ 朱墨書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-7
詠史詩選草稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 〔葉數〕十六葉 〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詩史詩選草稿」（仮表紙 詩史は詠史の誤り） 〔備考〕句点 返点 墨筆による書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む	LH2/甲56-8

詠史詩選草稿 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2/甲56-9

藤澤南岳書き入れ

〔葉数〕四十葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史詩選草稿」

〔備考〕一部に句点・送り仮名・返点 朱墨書き入れ多し 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

日本袖史 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲57

〔葉数〕六葉

〔内題・外題〕内題「日本袖史」 書き付け外題「袖史 皇系表」

〔備考〕朱墨書き入れ 題簽「通史論文・日本袖史皇室表」の帙に収む

通史論文 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2/甲58

〔葉数〕九十七葉（墨付三十葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「通史論文」

〔備考〕精写本 欄外書き入れあり 題簽「通史論文・日本袖史皇室表」の帙に収む

通史外編 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆力

LH2/甲59-1～59-2

〔葉数〕一冊目四十葉 二冊目（五十八葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋餘筆」

〔備考〕外題のみ南岳筆 一冊目に「稱呼譯抄」「通史外編卷之一」「通史外編卷之二」「二冊目に「通史外編卷之三」を収む 精写本 句点 返点題簽「通史外編」の帙に収む

通史年表 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲60-1～60-2

〔葉数〕一冊目四十葉（墨付三十六葉） 二冊目三十八葉（墨付三十七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「通史年表」

〔備考〕「辛酉元年〔西州前六百六十年〕」から「元治元年〔千八百六十四〕」までの年表 欄外書き入れあり 題簽「通史年表」の帙に収む

大阪名家考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲61

〔葉数〕二十四葉（墨付十八葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大阪名家考」

〔備考〕「大阪府誌総目」「名家考」よりなる「名家考」は江戸期における大阪の名家を簡潔に記述する 欄眉書き入れ 題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

三府通誌料 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲62

〔葉数〕九十六葉（墨付六十五葉）

〔内題・外題〕内題「三府通誌料」 書き付け外題「三府通誌料」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕江戸・大阪・京都の建置沿革を述べたあと大阪の地誌や人物について考証する 卷末に「以明治四十四爲断限」とあり 朱墨書き入れ 題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

名家墓所集 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲63

〔葉数〕四十二葉（墨付四十一葉）

〔内題・外題〕内題「名家墓所集」 書き付け外題「大阪名家墓所集」

〔備考〕扉に「墓所集」とあり 大阪の名家多数につき生卒年と墓所を考証する 題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

名士傳料 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2/甲64

〔葉数〕十五葉（墨付十一葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大坂 名士傳料」

〔藏書印〕十一葉の裏の末尾に「泊園文庫」印
〔備考〕欄外書入れは南岳筆 大阪の名士につき伝記を記す 句点 題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

海内詩傳 一冊 藤澤南岳著 抄写写未詳 LH2/甲65

〔葉数〕五十二葉
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「海内詩傳 二」
〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔備考〕江戸後期・明治の漢詩人の伝記と漢詩を載せる 朱点 欄外書き入れ 題簽「大阪名家人物傳 海内詩傳・府誌草」の帙に収む

府誌草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲66

〔葉数〕三十五葉（墨付十三葉）
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「府誌草 郡部」
〔備考〕大阪府誌の覚書 題簽「大阪名家人物傳 海内詩傳・府誌草」の帙に収む

浪華人物誌草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲67

〔葉数〕四十一葉
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「浪華人物誌草」
〔備考〕大阪の人物多数の伝記を考証整理している 精写本 欄外書き入れ 題簽「浪華人物誌草」の帙に収む

大阪府誌草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲68

〔葉数〕二十一葉
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大阪府誌草」
〔備考〕大阪府誌の草稿 巻末に「豊太閤大坂城中壁書」を附す 題簽「浪華人物誌草」の帙に収む

翰林九福 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲69

〔葉数〕十八葉（墨付十一葉）
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「名賢 翰林九福 藝苑」
〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔備考〕見返しに「名賢 翰林九福」とあり 日本の古今の名賢につき「安逸」「通顯」「壽考」「譽望」「廟祀」等の分類のもとに人名と簡単な略歴を記した草稿 朱筆書き入れあり 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

名士九命草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲70-1

〔葉数〕十五葉（墨付十一葉）
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「名士九命草」
〔備考〕表紙右上に「文章 名士九命草 知遇」、表紙右下に「箋二」「花」（朱書き）と書き付け LH2/甲69と一連の草稿 朱筆書き入れあり 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

九命草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲70-2

〔葉数〕二十三葉（墨付十一葉）
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「九命草」
〔備考〕LH2/甲69と一連の草稿 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芸窓録事 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲71

〔葉数〕四十一葉（墨付二十葉）
〔内題・外題〕内題「芸窓録事」 書き付け外題「芸窓録事」
〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔備考〕「別号録」と「亡友録」よりなるが後者は篇題のみ 「別号録」は知友門人の別号を列挙した覚書で「門生」の項目もあり 末尾奥書に「大正八年己未消

夏襖録 香翁手記 七月一日雨」とあり 見返しと第一葉表の間に前に「詩 老夫子 遊履餘痕 一」と墨書した挟み物あり 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲72-1

〔葉數〕三十三葉

〔内題・外題〕内題「芳號九流」書き付け外題「芳號九流」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕知友門人の号を五十音順で列挙する 卷末奥書に「改目為九家者流 文學 詞藻 墨客 畫匠 医門 頭陀 算工 茶博 閨秀」「今所録浪華而已要更収 録海内」と朱書される 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲72-2

〔葉數〕二十四葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流」

〔備考〕知友門人の号を列挙したもの LH2/甲72-1より詳しく 奥書に「以明治二十四年為斷」「此歳年五十以上者皆録之少者不得詳其終故不録」「既亡者皆録之不問老幼」「不可仰敬者不録只小技亦可實可賞則録之」とあり 第十八葉袋とじ内に「西山氏名ハ成章字ハ子達」に始まる南岳手筆の短い伝記あり 朱墨書き入れ 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲72-3

〔葉數〕三十八葉（墨付十九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流 明 大」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕明治・大正期の邦人の号を「安以宇江遠」「加幾久計古」のように五十音順で列挙する 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流草稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲72-4

〔葉數〕二十八葉（墨付二十七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流草稿」

〔備考〕知友門人の号を列挙する 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流草稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲72-5

〔葉數〕四十六葉（墨付三十七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流草稿」

〔備考〕邦人の号を列挙した覚書 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

歸厚年表草 一枚 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲73-1

〔内題・外題〕内題「歸厚年表草」書き付け外題「歸厚年表草」

〔備考〕伊藤仁斎以降の江戸時代の儒者の卒年を記した覚書 題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

歸厚年契 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲73-2

〔葉數〕二十四葉（墨付二十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「歸厚年契」

〔備考〕各葉上隅に小字で「丙寅」「戊辰」のように干支を書き入れる 記事は「乙酉」葉に「宝永二 三月仁齋卒」、「戊申」葉に「享保十三 徂徠卒」の二条の記入があるのみ 名家の卒年を記するためのノートとして準備されたものであらう 題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

老部 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲74

〔葉數〕二十九葉（墨付二十九葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕「六十一」から「一百十八」に至る番号を附し古今の邦人の名を列挙する
朱筆による書き入れ 第一葉袋とじ内に諸人の卒年を記した覚書あり 題簽「歸
厚年表・老部」の帙に収む

儒臣大事表 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲75

〔葉数〕十七葉（墨付十七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「儒臣大事表 七香齋餘筆」

〔備考〕慶長十九年から癸未（一九四三年）に至る年号一覽表を作り、儒者の死去
と卒年を当該年に記入する 題簽「儒臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

先哲生卒年考 一冊 藤澤南岳著

LH2/甲76

〔葉数〕三十二葉（墨付二十八葉）

〔内題・外題〕内題「先哲生卒年考」 書き付け外題「七香齋餘筆」

〔備考〕永祿四年「藤原惺窩生于播州細河邑」に始まり、文政九年「三月九日龜田
鵬齋歿年七十五」に至る、江戸時代の儒者年表 墨筆による訂正多し 題簽「儒
臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

明史人名抄 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲77

〔葉数〕八十二葉（墨付八十二葉）

〔内題・外題〕内題「明史人名抄 上」 外題なし

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕巻頭に「恒手録」とあり『明史』所載の人名のみを列挙する 韻字ごとに
人名を分類し、人名の下に『明史』の伝の巻数を小字で記す 朱点 欄眉に墨
書き入れ多し 題簽「明史人名抄」の帙に収む

清統譜 二冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲78-1~78-2

〔葉数〕一冊目四十八葉（墨付四十八葉） 二冊目三十葉（墨付三十葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「清統譜」

〔備考〕韻字ごとに人名を分類し、字号・貫籍などを記す 題簽「清統譜・清士小
傳 外」の帙に収む

清人總目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲79

〔葉数〕二十二葉（墨付七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「清人總目」

〔備考〕清代の学者の名のみを五十音順に列挙した覚書 題簽「清統譜・清士小傳
外」の帙に収む

清士小傳 二冊 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆カ

LH2/甲80-1~80-2

〔葉数〕一冊目四十六葉（墨付四十六葉） 二冊目七十二葉（墨付七十二葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「清士小傳」

〔備考〕清人の名を韻字ごとに分類して列挙し、まゝ小伝を双行で附した人名録 外
題のみ南岳筆 精写本 題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

唐土老部 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲81

〔葉数〕十一葉（墨付十一葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「唐土老部」

〔備考〕各葉上部に「七十」以降の数字を記し「九十以上」に至る 人名を少数な
がら記し、「七十 范成大」に始まって「沈歸愚 九十五」に終わる（沈歸愚は
清の沈德潜） 数字は享年であろう 題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

唐人名彙 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲82

〔葉数〕六十葉（墨付五十八葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋餘筆」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕清人の名を「安」「加」「也」「羅」まで五十音順で九部に分けて列挙する 部ごとに「宰輔」「詞臣」「諫臣」「經學」などの項目を朱で記す 詳細な人名録 題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

明清名彙 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲83

〔葉数〕五十六葉（墨付五十六葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「明清名彙」

〔備考〕冒頭に漢字を五十音順で掲げて目次とし、ついで「安鴻漸」以下の人名を列挙する ただし人物はすべて宋人である 書名の「明清名彙」はかつて図書館が決めたものであるが、「宋人明彙」と改めるべきである 本書は題簽「全唐文詩人名總目・明清名彙」の帙に収められるが、この題簽名も訂正を要する

全唐文詩人名總目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲84

〔葉数〕七十二葉（墨付七十二葉）

〔内題・外題〕内題「全唐文詩人名總目」 書き付け外題「七香齋餘筆」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕五十音順に人名を列挙し、人名の下に『全唐文』の当該巻数を小字で記す 詳細な人名録 精写本 欄外に書き入れあり 題簽「全唐文詩人名總目・明清名彙」の帙に収む

建置沿革 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲85

〔葉数〕十四葉（墨付十四葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「建置沿革」

〔備考〕日本の諸郡建置の沿革に関する覚書 題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

地名考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲86

〔葉数〕三葉（墨付三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「地名考」

〔備考〕冒頭に「州郡部」とあり 日本の一部の州郡部地名に関する考証覚書 題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

吉備地志料 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲87

〔葉数〕十六葉（墨付十六葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「吉備地誌料」

〔備考〕「和氣郡」「赤坂郡」「児嶋郡」「御野郡」「上道郡」「磐梨郡」「津高郡」「邑久郡」に分けて地名のみ記す 墨書による訂正あり 題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

讃岐地志料凡例 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲88

〔葉数〕六葉（墨付六葉）

〔内題・外題〕内題「地志料」 書き付け外題「讃岐地誌料凡例」

〔備考〕讃岐の地誌につき「目次」「地誌略稿例」を記し、「建置沿革」その他について草した覚書 題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

讃岐地志料 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲89

〔葉数〕二十六葉（墨付二十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「讃岐地誌料」

〔備考〕「大内郡」「寒川郡」「山田郡」「香川東郡」「香川西郡」「阿野北郡」「阿野南郡」「那珂郡」「多度郡」「三野郡」「豊田郡」「小豆島」について地誌を考証する ただしそのあとに続く「巨麻郡」「山梨郡」「八代郡」「都留郡」は讃岐ではなく甲斐の郡名である 欄外に書き入れあり 題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

文章九彩 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲90

〔葉数〕五十四葉（墨付五十二葉）

〔内題・外題〕内題「文章九彩」書き付け外題「文章九彩」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕和文 大正五年四月刊『文章九彩』の浄書稿本であろう 精写本 題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

短古韻範九格 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲91-1

〔葉数〕二十葉

〔内題・外題〕内題「短古韻範九格」書き付け外題「短古九格」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕内題「短古韻範九格」の上部欄眉に「古押九格」と記す 朱点 朱墨書き

入れ 大正五年四月刊『古押九格』の浄書稿本であろう 精写本 題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

短古韻範 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲91-2

〔葉数〕七葉

〔内題・外題〕内題「短古韻範」書き付け外題「短古韻範九格」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕内題「短古韻範」の下に「九格」と朱書き 朱墨書き入れあり 題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

九格詳註 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲92

〔葉数〕三十二葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「九格詳註」

〔備考〕『古押九格』のための草稿であろう 朱墨書き入れ多し 第十五葉裏に朱筆

で泊園書院における「日課」を載せ「九月二十一日記」と記す 題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

簡字九韻 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲93-1

〔葉数〕三十一葉

〔内題・外題〕内題「簡字九韻」書き付け外題「簡字九韻」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕漢字を「一同」「二音」「三節」「四新」「五奇」「六目」「七高」「八雅」「九

緝」の九部に分類した韻書 朱書の書き入れ多し 題簽「文章九彩・短古九格

外）」の帙に収む

簡字九韻 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲93-2

〔葉数〕二十六葉

〔内題・外題〕内題「簡字九韻」書き付け外題「簡字九韻」

〔備考〕LH2/甲93-1の精写本 外題のみ南岳自筆 題簽「文章九彩・短古九格

外）」の帙に収む

詩韻玉粹 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲94-1

〔葉数〕二十葉

〔内題・外題〕内題「詩韻玉粹 卷下」書き付け外題「詩韻玉粹」

〔備考〕巻上を欠く 朱墨書き入れ多し 題簽「文章九彩・短古九格 外」の帙に

収む

詩韻玉粹 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲94-2

〔葉数〕三十六葉（墨付三十五葉）

〔内題・外題〕内題「詩韻玉粹」書き付け外題「詩韻玉粹」

〔備考〕LH2/甲94-1の精写本 内題のみ南岳自筆 朱墨書き入れ 題簽「詩韻玉

粹・韻雅」の帙に収む

韻略九圖 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲95

〔葉数〕三十九葉（墨付三十四葉）

〔内題・外題〕内題「韻略九圖」書き付け外題「臥遊餘事」

〔備考〕朱筆による訂正あり 題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

韻雅詳註 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲96

〔葉数〕六十八葉

〔内題・外題〕内題「韻雅詳註」書き付け外題「韻雅詳註」

〔備考〕明治四十年十月刊『韻雅』につき、韻字の下に当該韻字を用いた熟語を双行注で記す ただし「下平声」「一先」から始まって「四支」（上平声）が続き、ついで「二蕭」（下平声）に移るなど、乱丁があるようである 題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

韻雅 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲97-1

〔葉数〕六十五葉（墨付六十三葉）

〔内題・外題〕内題「韻雅」書き付け外題「輯韻 全」

〔備考〕卷二から巻五の題は「輯韻」明治四十年十月刊『韻雅』の前半部分の草稿 欄外書き入れ多し 題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

韻雅 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲97-2

〔葉数〕三十九葉

〔内題・外題〕内題「韻雅」書き付け外題「韻雅 下」

〔備考〕明治四十年十月刊『韻雅』の後半部分の草稿 欄外朱墨書き入れ多し 奥書に「清施何牧着韵雅五卷故改名韻綜」、朱筆で「又按作韻典亦可」とあり 題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

韻雅 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲97-3

〔葉数〕四十六葉（墨付四十五葉）

〔内題・外題〕内題「韻雅」外題なし

〔備考〕明治四十年十月刊『韻雅』の浄書稿本 精写本 朱墨書き入れ 題簽「韻雅」の帙に収む

詩韻貫綜 三冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲98-1~98-3

〔葉数〕一冊目二十一葉 二冊目二十三葉（墨付二十二葉） 三冊目七十三葉（墨付七十二葉）

〔内題・外題〕巻十一巻頭に内題「詩韻貫綜」あり 外題なし

〔備考〕韻字の下に当該韻字を用いた熟語を双行注で記す 一冊目は「一送」から「七遇」まで（去声）、二冊目は「一董」から「二十二養」まで（上声）、三冊目は「九泰」から「三十陷」まで（去声）、ついで「一屋」から「十七治」まで（入声） 二冊目と三冊目にはところどころ落丁あり 欄外書き入れ 題簽「詩韻貫綜」の帙に収む

詁略 四冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲99-1~99-4

〔葉数〕一冊目三十五葉（墨付二十四葉） 二冊目三十葉（墨付十六葉） 三冊目三十六葉（墨付十三葉） 四冊目三十三葉（墨付二十二葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詁略 上（上平）（下平）（去）」

〔備考〕難解な漢語につきその意味と出典を記した一種の漢語語彙辞書 漢語末字の韻により分類する 二冊目第二十九葉裏と第三十葉表の間に挟み物あり、「茶具」と題し様々な茶具の別名ついて意味を記す（南岳手書） 題簽「詁略」の帙に収む

簡字九韵 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲100

〔葉数〕二十六葉（墨付二十五葉）

〔内題・外題〕内題「簡字九韻」書き付け外題「簡字九韻稿」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕韻書稿本 LH2／甲93-1～93-2の「簡字九韻」と同名だが韻の分類は異なり「東」韻から始まる 欄外書き入れあり 題簽「簡字九韻」の帙に収む

談老 二冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2／甲101-1～100-2

〔葉数〕一冊目四十八葉 二冊目四十二葉

〔内題・外題〕内題「談老」書き付け外題「談老 乾（坤）」

〔備考〕楷書本 句点 朱点 送り仮名 返点 朱墨書き入れ多し 題簽「談老」の帙に収む

談老 二冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2／甲102-1～102-2

〔葉数〕一冊目四十三葉 二冊目三十七葉

〔内題・外題〕内題「談老」書き付け外題「談老 乾（坤）」

〔備考〕行書本 朱点 送り仮名 返点 朱墨書き入れ多し 題簽「談老」の帙に収む

莊子南華真經箋疏

十冊一帙 郭象註

LH2／甲103-1～103-10

藤澤東岐箋 藤澤南岳評疏 藤澤南岳筆

〔葉数〕一冊目二十八葉 二冊目二十九葉 三冊目二十四葉 四冊目二十七葉 五冊目三十五葉 六冊目葉 七冊目三十八葉 八冊目三十八葉 九冊目三十一葉

十冊目二十七葉

〔内題・外題〕内題「莊子南華真經」書き付け外題「南華箋疏 一（二）（三）（四）（五）（六）（七）（八）（九）（十）」

〔藏書印〕巻頭に「南岳」印

〔備考〕欄眉注 句点 朱点 送り仮名 返点 行間・欄外とも朱墨書き入れ多し 題簽「南華箋疏」の帙に収む

中庸講義 二冊一帙 藤澤南岳講述 米倉領次郎筆記

LH2／甲104-1～104-2

藤澤南岳書き入れ 鉛印

〔刊年〕明治三十八（一九〇五）年

〔出版社〕大阪書房 文海堂

〔葉数〕一冊目五十葉 二冊目七十九葉

〔内題・外題〕内題「中庸講義」外題なし

〔備考〕見返しに「藤澤南岳先生講述 米倉領次郎筆記 中庸講義 大阪書房 文海堂發行」、奥付に「明治三十八年六月十日印刷 同三十八年六月十五日發行」

〔著作者〕松村九兵衛「發行者 松村九兵衛」「賣捌所 林平次郎」「印刷者 井上仲藏」とあり 句点 返点 行間・欄外に朱墨書き入れ 題簽「中庸講義」

の帙に収む

中庸注 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2／甲105

〔葉数〕四十二葉（墨付三十六葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし 仮に「中庸注」と題す

〔備考〕欄外書き入れ 朱墨書き入れ多し 題簽「中庸讀本」の帙に収む

中庸讀本 一冊 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆

LH2／甲106

〔葉数〕十二葉

〔内題・外題〕内題「中庸讀本」書き付け外題「中庸讀本」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 句点 送り仮名 返点 行間・欄外に書き入れ 巻末に「男元校」とあり 題簽「中庸讀本」の帙に収む

論語分類 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2／甲107

〔葉数〕七十一葉

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕行間・欄外ともに書き入れ多し 行間・欄外に朱筆書き入れ 明治二十五年刊『論語彙纂』の草稿か 題簽「論語分類」の帙に収む

七香齋叢書 二十七冊四帙 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆 LH2/甲108-1~108-27

〔葉数〕一冊目十八葉 二冊目二十葉 三冊目四十葉 四冊目二十四葉 五冊目二十一葉 六冊目三十三葉 七冊目三十葉 八冊目四十葉 九冊目三十七葉 十冊目四十八葉 十一冊目三十二葉 十二冊目五十五葉 十三冊目四十四葉 十四冊目二十三葉 十五冊目三十葉 十六冊目二十八葉 十七冊目十三葉 十八冊目三十九葉 十九冊目二十三葉 二十冊目三十八葉 二十一冊目十九葉 二十二冊目十一葉 二十三冊目三十六葉 二十四冊目五十葉 二十五冊目五十一葉 (墨付四十八葉) 二十六冊目四十葉 二十七冊目五十五葉

〔内題・外題〕内題「七香齋叢書」書き付け外題「叢書」

〔備考〕句点 返点 朱点 欄外書き入れ多し 朱墨書き入れあり 一冊目〳五冊目は題簽「七香齋叢書 一」の帙に収む 六冊目〳十一冊目は題簽「七香齋叢書 二」の帙に収む 十二冊目〳二十冊目は題簽「七香齋叢書 三」の帙に収む 二十一冊目〳二十七冊目は題簽「七香齋叢書 四」の帙に収む

七香齋類函 二十九冊四帙 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆 LH2/甲109-1~109-29

〔葉数〕一冊目三葉 二冊目十四葉 三冊目二十六葉 (墨付二十三葉) 四冊目十一葉 (墨付七葉) 五冊目四十四葉 六冊目三十七葉 (墨付四葉) 七冊目四十七葉 八冊目二十八葉 九冊目十四葉 十冊目十三葉 十一冊目三十六葉 十二冊目三十葉 十三冊目三十一葉 十四冊目二十五葉 十五冊目二十葉 十六冊目二十九葉 十七冊目二十四葉 十八冊目二十三葉 十九冊目四十葉 二十冊目四十三葉 二十一冊目五十四葉 二十二冊目三十五葉 (墨付三十四葉) 二十三冊目五十一葉 二十四冊目三十葉 二十五冊目三十六葉 二十六冊目二十二葉 二十七冊目三十一葉 二十八冊目六十九葉 二十九冊目四十五葉

〔内題・外題〕内題「七香齋類函」書き付け外題「七香齋類函」

〔藏書印〕一冊目・四冊目・五冊目・六冊目・八冊目・九冊目・十一冊目・十二冊目・十三冊目・十四冊目・十五冊目・十六冊目の卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕一冊目に「七香齋類函総目」を収む 朱点 句点 朱墨書き入れ多し 欄外書き入れ多し 明治二十二年以降に刊行された『七香齋類函』の稿本 一冊目〳九冊目は題簽「七香齋類函 一」の帙に収む 十冊目〳十六冊目は題簽「七香齋類函 二」の帙に収む 十七冊目〳二十四冊目は題簽「七香齋類函 三」の帙に収む 二十五冊目〳二十九冊目は題簽「七香齋類函 四」の帙に収む

七香齋類函 二十二冊二帙 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆 LH2/甲110-1~110-22

〔葉数〕一冊目五葉 二冊目三十八葉 三冊目十三葉 四冊目二十四葉 五冊目十六葉 六冊目十六葉 七冊目十葉 八冊目十葉 九冊目十一葉 十冊目五十一葉 十一冊目二十七葉 十二冊目二十七葉 十三冊目二十四葉 (墨付二十三葉) 十四冊目三十九葉 十五冊目二十二葉 (墨付二十一葉) 十六冊目三十葉 十七冊目二十六葉 十八冊目三十九葉 十九冊目十葉 二十冊目三十二葉 二十一冊目五十一葉 二十二冊目四十三葉

〔内題・外題〕内題「七香齋類函」書き付け外題「七香齋類函」

〔藏書印〕一冊目〳四冊目、六冊目〳十三冊目の卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 明治二十二年以降に刊行された『七香齋類函』の浄書稿本 句点 返点 朱墨書き入れ多し 朱墨欄外書き入れ多し 一冊目〳十三冊目は「題簽「七香齋類函 上」の帙に収む 十四冊目〳二十二冊目は題簽「七香齋類函 下」の帙に収む

七香齋吟草 六冊二帙 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆 LH2/甲111-1~111-6

〔葉数〕一冊目六十九葉 二冊目九十八葉 三冊目百二十三葉 四冊目百十五葉 五冊目九十七葉 六冊目百二十四葉 (墨付百二十三葉)

〔内題・外題〕内題「七香齋吟草」書き付け外題「七香齋吟草 一 (一) (三) (四)」

〔五〕〔六〕

〔備考〕精写本 句点 朱筆による書き入れ多し 附箋貼り付け多し 一冊目～三冊目には題簽「七香齋吟草 上帙」の帙に収む 四冊目～六冊目には題簽「七香齋吟草 下帙」の帙に収む

詩文稿

四冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲112-1～112-4

〔葉数〕一冊目四十八葉（墨付四十六葉） 二冊目四十九葉（墨付四十八葉） 三冊目五十葉（墨付四十五葉） 四冊目二十九葉（墨付二十八葉）

〔内題・外題〕内題「詩文稿」 書き付け外題「詩文稿 一」（一冊目）、「詩文稿 三」（二冊目）、「詩文稿 五」（三冊目）、「壬申稿 明治五年」（四冊目）

〔藏書印〕四冊目卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕南岳早期の漢詩文原稿 朱点 朱墨書き入れ多し 題簽「南岳先生詩文稿」の帙に収む

七香齋吟草

十七冊三帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲113-1～113-17

〔葉数〕一冊目七十八葉（墨付七十二葉） 二冊目五十三葉 三冊目六十七葉（墨付六十六葉） 四冊目八十四葉（墨付六十七葉） 五冊目二十八葉 六冊目五十四葉（墨付五十葉） 七冊目四十九葉（墨付三十五葉） 八冊目二十九葉（墨付二十七葉） 九冊目五十三葉（墨付十八葉） 十冊目二十一葉 十一冊目十八葉（墨付五葉） 十二冊目二十九葉（墨付九葉） 十三冊目三十葉（墨付二葉） 十四冊目二十一葉（墨付三葉） 十五冊目十八葉（墨付十葉） 十六冊目四十葉（墨付三十八葉） 十七冊目三十葉（墨付二十八葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋吟草」 書き付け外題「七香齋吟草 一」（二）（三）（四）（五）（六）（七）（八）（九）（一冊目～九冊目）、「七香齋吟草 別集」（十冊目）、「七香齋吟草」（十冊目～十二冊目）、「交情 四」（十三冊目）、「節序 一」（十四冊目）、「七香齋吟草 十五」（十五冊目）、「七香齋吟草 六 十七」（十六冊目）、「七香齋吟草 七」（十七冊目）

〔備考〕朱点 句点 朱墨書き入れ多し 一冊目～六冊目は題簽「七香齋吟草 一」の帙に収む 七冊目～十六冊目は題簽「七香齋吟草 二」の帙に収む 十七冊目は題簽「七香齋吟草」の帙に収む

周易輯疏

七冊一帙 藤澤南岳著 鉛印

LH2/甲114-1～114-7

〔葉数〕一冊目二十一葉 二冊目三十七葉 三冊目三十一葉 四冊目二十六葉 五冊目三十一葉 六冊目三十葉 七冊目三十九葉

〔内題・外題〕内題「周易輯疏」 書き付け外題「輯疏 乾坤 一」（一冊目）、「輯疏 二」（二冊目）、「輯疏 三」（三冊目）、「四」（四冊目）、「輯疏 缺明夷 五」（五冊目）、「六」（六冊目）、「七」（七冊目）

〔備考〕藤澤南岳による墨書補筆部分あり 句点 朱墨返り点 書き入れ 欄外朱墨書き入れ 題簽「周易輯疏」の帙に収む

周易輯疏

四冊一帙 藤澤南岳著 鉛印

LH2/甲115-1～115-4

〔葉数〕一冊目七十七葉 二冊目四十五葉 三冊目五十二葉 四冊目五十五葉

〔内題・外題〕内題「周易輯疏」 書き題簽「周易輯疏 元（亨）（利）（貞）」

〔藏書印〕一冊目・三冊目・四冊目の卷末に「黄坡」印

〔備考〕藤澤黄坡のものとされる墨書補筆部分あり 句点 朱墨書き入れ 欄外朱墨書き入れ 題簽「周易輯疏」の帙に収む（LH2/甲114は別の帙）

詩家説

四冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆カ

LH2/甲116-1～116-4

〔葉数〕一冊目三十四葉 二冊目六十葉 三冊目四十八葉 四冊目二十二葉（墨付二十一葉）

〔内題・外題〕内題「詩家説」 書き付け外題「詩家説 大雅」（一冊目）、「詩家説 小雅」（二冊目）、「詩家説 国風」（三冊目）、「詩家説 頌」（四冊目）

〔備考〕精写本 句点 返り点 朱墨書き入れ 欄外書き入れ 題簽「詩家説」の帙に収む

談老 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄坡筆

LH2/甲117-1~117-2

〔葉数〕一冊目五十四葉 二冊目五十一葉

〔内題・外題〕内題「談老」 外題なし

〔備考〕「黄坡用箋」の原稿用紙を用う 黒ペン書き 句読点 訓点 青鉛筆・筆書きによる書き入れ 題簽「談老」の帙に収む

七香齋吟稿 八冊三帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲118-1~118-8

〔抄写年〕明治三十三年~大正七年

〔葉数〕一冊目二十四葉 二冊目五十葉 三冊目七十葉 四冊目四十三葉 五冊目百三葉 六冊目四十七葉 七冊目五十六葉 八冊目五十八葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋吟稿」

〔備考〕句点 朱点 批注者による朱筆・青筆・黄筆・緑筆・茶筆・筆書の書き入れ多し 欄外書き入れ甚だ多し 七冊目に批注者の印多数あり 題簽「七香齋吟稿 一」「七香齋吟稿 二」の帙に収む

和陶飲酒詩 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲119

〔葉数〕七葉 (墨付二葉)

〔内題・外題〕内題「和陶飲酒詩」 書き付け外題「和陶詩」

〔備考〕小野湖山・山田永年・(清)魏絳等批注 朱点 朱筆・緑筆・筆書による書き入れ 「七香齋吟稿 二」の帙に収む

浪華雜詠填笺集 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲120

〔葉数〕七葉 (墨付二葉)

〔内題・外題〕内題「浪華雜詠填笺集」 書き付け外題「浪華襍詠」

〔備考〕朱点 朱墨書き入れ 朱墨欄外書き入れ 「七香齋吟稿 二」の帙に収む

日課文章 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲121

〔葉数〕八葉

〔内題・外題〕内題「日課文章」 書き付け外題「日課文章」

〔備考〕句点 書き入れ多し 「七香齋吟稿 三」の帙に収む

七香齋文稿 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鶴筆

LH2/甲122-1~122-2

〔葉数〕一冊目八十七葉 二冊目八十五葉 (墨付八十四葉)

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋文稿 乾(坤)」

〔備考〕精写本 句点 朱点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文稿」の帙に収む

探奇小記 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲123

〔葉数〕三十三葉

〔内題・外題〕内題「探奇小記」 書き付け外題「探奇小記」

〔備考〕明治二十年七月刊『探奇小録』の草稿 朱筆・緑筆・筆書による書き入れ多し 題簽「七香齋文稿」の帙に収む

探奇小録 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2/甲124

〔葉数〕十七葉

〔内題・外題〕内題「探奇小録」 書き付け外題「探奇小録」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕明治二十年七月刊『探奇小録』の浄書原稿 朱墨による書き入れあり 題簽「七香齋文稿」の帙に収む

七香齋文稿 八冊二帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲125-1~125-8

〔葉数〕一冊目三十一葉 (墨付二十八葉) 二冊目三十九葉 三冊目六十二葉 四冊目五十葉 (墨付四十七葉) 五冊目百十五葉 (墨付百十四葉) 六冊目八十二葉

七冊目七十四葉 八冊目百十二葉

〔内題・外題〕内題「七香齋文稿」書き付け外題「七香齋文稿(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)」

〔備考〕南岳の文章を最も広く収めた文集原稿 朱墨による書き入れ多し 題簽「七香齋文稿」の帙に収む

七香齋類函材料 五冊二帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲126-1~126-5

〔葉数〕一冊目十六葉(墨付七葉) 二冊目二十四葉(墨付二十一葉) 三冊目六葉

四冊目五十一葉(墨付五十葉) 五冊目二十葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「警策」(一冊目)、「棟考」(二冊目)、ナシ(三冊目)、「史徴」日本書紀(四冊目)、「史徴」續日本紀(五冊目)

〔藏書印〕四冊目・五冊目の巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕朱点 朱墨書き入れ 朱墨欄外書き入れ 題簽「七香齋類函材料」の帙に収む

皇陵巡拝葉草稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲127

〔葉数〕十葉(墨付九葉)

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕大正十一年刊『皇陵巡拝道の葉』の草稿 題簽「七香齋類函材料」の帙に収む

百喜集 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲128

〔葉数〕七葉

〔内題・外題〕内題「百喜集」書き付け外題「百喜集」

〔備考〕題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

酒九令 真珠九目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲129

〔葉数〕十二葉

〔内題・外題〕内題「酒九令」「真珠九目」書き付け外題「酒九令 真珠九目」

〔備考〕朱点 朱墨による書き入れ 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

草花異名 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲130

〔葉数〕七葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「草花異名」

〔備考〕題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

濯錦餘光 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲131

〔葉数〕十五葉

〔内題・外題〕内題「濯錦餘光草」「濯錦餘光 七輯之一」「仙詞九體」書き付け外題「濯錦餘光」

〔備考〕朱点 朱墨による書き入れ多し 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

詞目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲132

〔葉数〕三葉

〔内題・外題〕内題「詞目」書き付け外題「詞目」

〔備考〕詞の題目を列挙する 朱筆による書き入れ 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

七香齋雜纂 三冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲133-1~133-2

〔葉数〕一冊目三十葉(墨付二十七葉) 二冊目四十一葉 三冊目十五葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋雜纂 一(一)(二)(三)」

〔藏書印〕二冊目第十一葉裏に「泊園文庫」印

〔備考〕南岳の未定稿十数種を合綴す 朱墨による書き入れ多し 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

浪華名家碑文集 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲134

〔葉数〕九十九葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「浪華名家碑文集」

〔備考〕大阪に残る碑文を広く集録する 書き入れあり 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

皇和類苑料 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲135

〔葉数〕五十五葉（墨付五十葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「皇和類苑料 一」

〔備考〕書き入れ 欄外書き入れ 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

草稿帝紀料 一冊 藤澤南岳著カ

LH2/甲136

〔葉数〕十八葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「草稿帝紀料 一」

〔備考〕題簽「史料・涉鴛録」の帙に収む

史料 七冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲137-1~137-7

〔葉数〕一冊目十九葉（墨付六葉） 二冊目二十葉（墨付六葉） 三冊目十八葉（墨付〇葉） 四冊目十三葉（墨付〇葉） 五冊目十三葉（墨付〇葉） 六冊目二十葉（墨付〇葉） 七冊目十八葉（墨付十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「史料 一（一）（三）（六）（七）（九）（十）」

〔備考〕一冊目内題「國名考」 七冊目内題「襍考十 諸号考」 題簽「史料・涉鴛録」の帙に収む

涉鴛録 六冊 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆

LH2/甲138-1~138-6

〔葉数〕一冊目三十二葉 二冊目二十六葉 三冊目五十二葉（墨付二十四葉） 四冊目三十二葉 五冊目七十五葉 六冊目十八葉

〔内題・外題〕内題「涉鴛録」（二冊目巻頭） 書き付け外題「涉鴛録 一（一）（三）（四）（五）（六）」

〔藏書印〕二冊目巻末に「泊園書院」印

〔備考〕諸家の語文を集録 精写本

一冊目『蒙求統紹』『桑華蒙求』『左傳蒙求』の序跋と目次を書写する

二冊目「宋詩抄」（清呉之振撰）、「叙」（鐵研學人齋藤謙撰）、「咏牡丹花白百

絶」（平安後進好事儒者陽樓軒）、「鴨川朗詠集跋」（松坂家里典識於一身田僞

居益堅齋）、「答問日本風俗」、「明治五年始テ學制ヲ公布セラレシヨリ今二

十三年」に始まる和文

三冊目「題釋奠考首」、「釋奠考」（中谷輝（雲漢）、「先子文評」として「書林

谷山人遺稿前」（阿部絹洲）、「政記存疑」（五弓久文）、「深慨十律」（淮水老杜

多）を抄録す

四冊目 表紙左下隅に「三 本紀」、巻頭に「卷二十四」とあり

五冊目「淳化祖帖釋文札記」「歷代帝王法帖」「歷代名臣法帖」を適録す

六冊目「類聚國史寫抄」

朱墨による書き入れ 墨筆による欄外書き入れ多し 題簽「史料・涉鴛録」の帙に収む

成語索引

五冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲139-1~139-5

〔葉数〕一冊目三十五葉 二冊目三十一葉（墨付三十葉・背表紙墨付含む） 三冊目十八葉（墨付十六葉・背表紙墨付含む） 四冊目二十五葉（墨付二十四葉） 五冊目十六葉（墨付十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「安加」（二冊目）、「佐」（二冊目）、「多奈」（三冊目）、「波滿」（四冊目）、「也來話」（五冊目）

〔備考〕漢語の成語を多数掲げるとともに、その出典と用例を示す 朱墨による書き入れ多し 題簽「成語索引」の帙に収む

七香齋類函目錄 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲140

〔葉数〕八十九葉（墨付六十一葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕横小本 卷六から卷百までの目録のみ記す『七香齋類函』の目録稿であらう 末尾に「製本録」あり 題簽「成語索引」の帙に収む

引用書目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲141

〔葉数〕七十葉（墨付四十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「引用書目」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕横小本 イロハ順に国書のみ記す 卷末に「丙戌二月 二百 乙酉十月 百零七」とあり 題簽「鶏窓餘筆・代耕録」の帙に収む

鶏窓餘筆 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲142

〔葉数〕九十三葉（墨付五十九葉）

〔内題・外題〕外題なし

〔備考〕横小本 座右備忘帳カ 第一葉～第四葉が清翟灝著、藤澤南岳抄「四書考異抄」、第六葉～第二十八葉が「鶏窓餘筆」、第二十九葉が親交ある学者の住所録、第三十三葉以下は様々な覚書 朱墨による書き入れ 題簽「鶏窓餘筆・代耕録」の帙に収む

代耕録 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲143

〔葉数〕百三葉（墨付二十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「代耕録」

〔備考〕横小本 座右備忘帳カ 題簽「鶏窓餘筆・代耕録」の帙に収む

莊子標疏 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2/甲144-1～144-2

〔葉数〕一冊目三十三葉 二冊目二十八葉（墨付二十一葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「標疏」

〔備考〕横本『莊子』の語句に注解を施したもの 精写本 題簽「標疏」の帙に収む

七香齋日録 三冊一帙 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲145-1～145-3

〔頁数〕一冊目三百二十頁 二冊目二百七十二頁 三冊目三百十頁

〔内題・外題〕外題「明治四十二年懷中日記」（一冊目）、「大正貳年懷中日記」（二冊目）、「大正三年懷中日記」（三冊目）

〔備考〕漢文による日記 洋装本手帳 一冊目・三冊目は博文館発行、二冊目は積善館発行 上下二段 墨筆・朱筆により記入 南岳の他の日記に倣い、これらの日記も「七香齋日録」と称しておく 題簽「七香齋日録」の帙に収む

七香齋日録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲146

〔葉数〕十七葉

〔内題・外題〕内題「七香齋日録」 書き付け外題「七香齋日録 明治二十五年六月 明治三十一年十月 明治三十七年九月」

〔備考〕漢文による日記 精写本 題簽「七香齋日録」の帙に収む

七香齋日録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲147

〔葉数〕二十一葉（墨付十七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋日録 明治三十九年六月」

〔備考〕漢文による日記 題簽「七香齋日録」の帙に収む

丁巳遊草（七香齋日録） 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲148

〔葉数〕九葉

〔内題・外題〕内題「丁巳遊草」書き付け外題「七香齋日録 丁巳遊草 大正六年五月」

〔備考〕漢文による日記 題簽「七香齋日録」の帙に収む

泊園書院年譜 一冊 藤澤南岳・藤澤黄坡編 LH2/甲149

藤澤南岳・藤澤黄坡筆

〔葉数〕五葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「泊園書院年譜」

〔備考〕朱墨による書き入れ 題簽「七香齋日録」の帙に収む

東咳夫子五十年祭計簿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆 LH2/甲150

〔葉数〕五葉（墨付二葉）

〔内題・外題〕表紙に「大正二年四月六日 東咳夫子五十年祭計簿 香翁手録」とあり 書き付け外題「東咳夫子五十年祭計簿」

〔備考〕横本 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

南岳先生行状 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲151

〔葉数〕三葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「南岳先生行状」

〔備考〕和文 朱墨による書き入れ 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

黄坡先生行状 二枚 石濱純太郎著 石濱純太郎筆 LH2/甲152

〔葉数〕二枚

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「黄坡先生行状」

〔備考〕和文 鉛筆書き 袋入り 昭和十一年四月三日開催の黄坡華甲祝賀会に当たつての執筆であろう 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

泊園三先生遺存 一冊 藤澤南岳・黄鶴・黄坡著 LH2/甲153

藤澤南岳・黄鶴・黄坡筆

〔葉数〕十葉（墨付九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「泊園三先生遺存」

〔備考〕「水天草廬日録」大正十一年一月・五月（黄鶴）、「阪本葵園祭文」（黄鶴 明治二十六年十一月）、「焚研社會稿」（黄坡 明治三十四年四月）、「辛丑四月文稿」（黄鶴 明治三十四年四月）、「塾則」（黄坡 和文）、「名實論之畧抄」（南岳 懷徳堂における挨拶 和文 大正四年十月）を含む 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

逍遙遊吟社會稿 一冊 藤澤黄坡編 LH2/甲154

藤澤黄坡・逍遙遊吟社會員筆

〔葉数〕十三葉

〔内題・外題〕内題「戊子七月會稿」書き付け外題「逍遙遊吟社會稿 昭和廿三年」

〔備考〕扉に「戊子七月逍遙遊吟社會稿 臨時月幹 秀野英俊」とあり 会員による漢詩冊 朱筆・墨筆・緑筆による批語書き入れ多し 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

夫子近製鈔登載一覽 一冊 藤澤黄鶴編 藤澤黄鶴筆 LH2/甲155

〔葉数〕十一葉

〔内題・外題〕内題「夫子近製鈔登載一覽」書き付け外題「夫子近製鈔登載一覽」〔備考〕藤澤南岳による欄外朱批あり 題簽「潤金社會稿 夫子近製鈔登載一覽」の帙に収む

藤澤南岳夫子文抄 一冊 越智宣哲編 LH2/甲156

〔葉数〕九葉

〔内題・外題〕内題「藤澤南岳夫子文抄」「同書牘抄」「同詩抄」書き付け外題「藤澤南岳夫子文抄」

〔備考〕精写本「正氣書院用紙」の藍刷原稿用紙を用う 朱点あり 題簽「潤金社會稿 夫子近製鈔登載一覽」の帙に収む

潤金社會稿 一冊 藤澤黄鵠・黄坡等 藤澤黄鵠・黄坡等筆 LH2/甲157

〔葉数〕十二葉（墨付十一葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「潤金社會稿」

〔備考〕表紙右上に「評閱限三日 要番次遞送」の書き付けあり 会員による漢詩冊 朱筆・墨筆・緑筆による欄眉・欄外の批語書き入れ多し 題簽「潤金社會稿 夫子近製鈔登載一覽」の帙に収む

黄鵠起草 一冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆 LH2/甲158

〔葉数〕三十一葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「黄鵠 起草」

〔備考〕訂正多し 題簽「黄鵠詩稿集」の帙に収む

黄鵠詩稿集 一冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆 LH2/甲159

〔葉数〕二十三葉（墨付二十一葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「黄鵠詩稿集」

〔備考〕漢詩集 扉に「明治十九年一月 藤澤元 詩稿集」の書き付けあり 明治十九年三月六日自序 第十三葉表に「明治丁亥廿年一月 藤澤元 詩集」 第二十一葉表内題に「詩稿」とあり 朱点 句点 送り仮名 返点 行間・欄外とも朱墨による書き入れ多し 題簽「黄鵠詩稿集」の帙に収む

黄鵠詩文稿 三冊一帙 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆 LH2/甲160-1～160-3

〔葉数〕一冊目五十七葉 二冊目八十六葉（墨付八十五葉） 三冊目五十六葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「黄鵠詩文稿 一（二）（三）」
〔備考〕漢詩文 藤澤南岳朱筆書入本 朱点 句点 朱墨による批語多し 題簽「黄鵠詩文稿」の帙に収む

黄鵠起草 一冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆 LH2/甲161-1～161-2

〔葉数〕一冊目四十葉（墨付三十二葉） 二冊目二十七葉（墨付十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「黄鵠起草」

〔備考〕もとの表紙の書き付け外題に「起草」とあり 漢文及び和文 朱墨による書き入れ 題簽「黄鵠起草」の帙に収む

國民精神作興詔書ヲ拝ス 一冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆 LH2/甲162

〔葉数〕十九葉（墨付十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕和文による草稿 前二葉半は南岳による「七香齋文雋目次」及び寛書 書による訂正多し 題簽「黄鵠起草」の帙に収む

三山二水録 一冊一帙 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲163

〔葉数〕十七葉

〔内題・外題〕内題「三山二水録」 外題「三山二水録」

〔備考〕漢文による日記 精写本 明治三十五年一月一日から二月二十八日まで 欄外書き入れあり 題簽「三山二水録」の帙に収む

鶏窓日誌 一冊一帙 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲164

〔葉数〕八十三葉

〔内題・外題〕内題「鶏窓日誌」 書き付け外題「鶏窓日誌」

〔備考〕漢文による日記 明治二十二年十月一日から同二十六年一月三十一日まで 墨書による訂正多し 題簽「鶏窓日誌」の帙に収む

天外浮槎日録 二冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲165-1~165-2

〔葉数〕一冊目四十二葉（墨付三十六葉） 二冊目四十四葉（墨付二十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「天外浮槎日録」（一冊目）、「日録」（二冊目）

〔備考〕漢文による日記 一冊目は明治三十四年八月一日から十二月二十七日まで 二冊目は明治三十五年一月一日から四月二十二日まで LH2/甲168「三山水録」の草稿 墨書による訂正多し 題簽「天外浮槎日録」の帙に収む

今文随筆 二冊 藤澤黄鵠編 藤澤黄鵠筆 LH2/甲166-1~166-2

〔葉数〕一冊目四十六葉（墨付二十葉） 二冊目四十四葉（墨付十五葉）

〔内題・外題〕内題「今文随筆」 外題なし

〔備考〕精写本 一冊目は「滙報序」「格致益聞滙報」等の抄録 二冊目は曾國藩の文章の抄録を収む 朱点 句点 朱墨による書き入れあり 題簽「天外浮槎日録」の帙に収む

黄鵠掌記 一冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲167

〔葉数〕二十一葉

〔内題・外題〕内題なし 外題「千字文」

〔備考〕黄鵠少年時代の掌記 前四葉は「千字文」の「入奉母儀」以下、最後の「焉哉乎也」までを抄写す 裏表紙に「明治十八年一月調之 淡路町一丁目 藤澤元 所持之」とあり 墨書による書き入れ多し 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

字引 一冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲168

〔葉数〕三十七葉（墨付三十四葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕「ア」から「ワン」、「ア」から「サン」までの音の漢字を列挙したもの 朱墨による書き入れあり 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

名數 一冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲169

〔葉数〕十七葉

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕「参（三）」から「九」に始まる漢語を列挙したもの 南岳による補筆あり 墨書による訂正あり 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

古文奇賞 一冊 藤澤黄鵠編 藤澤黄鵠筆 LH2/甲170

〔葉数〕三十三葉（墨付十一葉）

〔内題・外題〕内題「古文奇賞」 外題なし

〔備考〕扉に「黄鵠抄 古文奇賞」の書き付けあり 句点 書き入れ 欄外書き入れ 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

張尚瑗讀戰國策隨筆抄 一冊 藤澤黄鵠抄 藤澤黄鵠筆 LH2/甲171

〔葉数〕十九葉

〔内題・外題〕内題「張尚瑗讀戰國策隨筆抄」 外題なし

〔藏書印〕扉に「黄鵠」印
〔備考〕漢文 扉に「藤澤黄鵠 張尚瑗讀戰國策鈔」の書き付けあり 張尚瑗の『讀戰國策隨筆』から七十餘章にわたって抄録 墨書による書き入れ 欄外書き入れ 題簽「黄鵠手抄本」の帙に収む

醉古堂劔掃鈔譯 一冊（明）陸紹珩撰 藤澤黄鵠鈔譯 LH2/甲172

藤澤黄鵠筆

〔葉数〕四十葉（墨付十九葉）

〔内題・外題〕内題「醉古堂劔掃鈔譯」 外題なし

〔備考〕和文 書き入れ 欄外書き入れ多し 題簽「黄鵠手抄本」の帙に収む

周易 四冊一帙 藤澤黄坡抄 藤澤黄坡筆 LH2/甲173-1~173-4

〔葉数〕一冊目二十一葉（墨付十葉）二冊目十二葉 三冊目十六葉（墨付十五葉）四冊目十七葉（九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「周易 地（黄）（字）（宙）」

〔藏書印〕一冊目から四冊目の巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕『周易』本文に詳しい注を施したもの 天地玄黄宇宙分冊のうち天玄の二冊を欠く 三冊目と四冊目の裏表紙中央下に「西坡」とあり 西坡は明治二十六年までの黄坡の号 朱点 句点 書き入れ多し 題簽「周易 黄坡手抄」の帙に収む

論語講義 十一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲174-1~174-11

〔葉数〕一冊目十一葉 二冊目十二葉 三冊目十四葉 四冊目二十一葉 五冊目十八葉 六冊目二十六葉 七冊目十四葉 八冊目十八葉 九冊目十六葉 十冊目十五葉 十一冊目十五葉

〔内題・外題〕内題「論語」 書き付け外題「論語」

〔備考〕和文による詳しい講義原稿 朱墨による書き入れ多し 題簽「論語講義」の帙に収む

論語講義 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲175-1~175-2

〔葉数〕一冊目二十九葉 二冊目三十一葉（墨付二十八葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「論語」

〔備考〕和文による『論語』の講義原稿 ペン書き 書き入れ多し 題簽「論語講義 下」の帙に収む

論語講義 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲176

〔葉数〕五十三葉

〔内題・外題〕内題「論語講義」 書き付け外題「論語講義」

〔備考〕和文による講義原稿 ペン書き 赤・黒による書き入れ多し 題簽「論語講義 下」の帙に収む

論語講義 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲177

〔葉数〕五葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「論語講義」

〔備考〕漢文 ペン書き 題簽「論語講義 下」の帙に収む

論語副詮 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲178

〔葉数〕十葉

〔内題・外題〕内題「論語副詮」 書き付け外題「論語副詮」

〔備考〕漢文及び和文『論語』の講義原稿 朱墨による書き入れ多し 題簽「論語講義 下」の帙に収む

從吾好抄 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲179

〔葉数〕十一葉（墨付）八葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「從吾好抄」

〔備考〕中国古典から格言・警句・熟語等を選んで墨書し、朱筆で双行注を加える 表紙に「黄坡 西坡點」、「從吾好抄 第一集」とあり 裏表紙中央下に「西坡」とあり 第八葉袋とじ内に「論黨綱領」に始まる短文の挟み物あり 題簽「大學註疏 黄坡抄」の帙に収む

大學註疏 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆 LH2/甲180

〔葉数〕二十五葉（墨付二十一葉）

〔内題・外題〕内題「大學」 書き付け外題「大學註疏 全」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕朱点 欄眉の注多し 題簽「大學註疏 黄坡抄」の帙に収む

孟子鈔註 一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲181

〔葉数〕二十七葉

〔内題・外題〕内題「孟子」書き付け外題「孟子 一」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕諸子鈔註の一 『孟子』離婁篇上を収む 墨筆小字による欄外・行間への書き入れ多し 裏表紙中央下に「藤澤氏」の書き付け 題簽「孟子鈔註」の帙に収む

老子鈔註 一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲182

〔葉数〕九葉

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕諸子鈔註の二 『老子』の一部の章を収む 朱点 墨筆小字による欄外・行間への書き入れ多し 裏表紙に和文による解説あり 題簽「老子鈔註」の帙に収む

諸子鈔註 三冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲183-1~183-3

〔葉数〕一冊目十葉 二冊目八葉 三冊目十二葉

〔内題・外題〕内題「諸子鈔註」 外題なし

〔備考〕諸子鈔註の三 一冊目は『墨子』親士篇、法儀篇、尚上篇上、兼愛篇中、非攻篇上の本文を引用し、和文小字で注を加う 二冊目は『世說新語』方正篇下を摘録し、和文小字双行で注を加う 欄外書き入れ (LH2/甲183) 『世說新語補抄』の一部 三冊目は原文を引用し和文で解説を加う 題簽「諸子鈔註」の帙に収む

諸子考証 一冊一帙 藤澤黄坡編 藤澤黄坡筆

LH2/甲184

〔葉数〕九十五葉 (墨付六十五葉)

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「諸子考證 全」

〔備考〕諸子鈔註の四 「子類聞見録」(服部宇之吉口授 藤澤黄坡録 和文)、「墨子」(語釈 漢文)、「老子」(解説 和文)、「老子辯ヲ弁ズ」(島田博士 和文)「老子辨」は齊藤拙堂著)、「随聞隨筆」(覚書 漢文)よりなる 題簽「諸子考證」の帙に収む

世說新語補抄 二冊一帙 藤澤黄坡抄註 藤澤黄坡筆 LH2/甲185-1~185-2

〔葉数〕一冊目三十六葉 二冊目二十八葉

〔内題・外題〕内題「世說新語補抄」 外題なし

〔備考〕諸子鈔註の五 『世說新語補』德行篇上下、言語篇上中下(以上、一冊目)、政事篇、文学篇上中下、方正篇上、德行篇(以上、二冊目)を摘録し、和文小字双行で注を加う 欄外書き入れ 『諸子鈔註』二冊目 (LH2/甲183-2) は本書の離れ 朱点 句点 返点 送り仮名 書き入れ 題簽「世說新語補」の帙に収む

排砂日録 二冊一帙 藤澤黄坡録 藤澤黄坡筆 LH2/甲186-1~186-2

〔葉数〕一冊目四十八葉 (墨付二十四葉) 二冊目四十八葉 (墨付九葉)

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「續排砂日録 一」(二冊目)

〔備考〕漢文による日記 一冊目は大正十一年秋分序 大正十一年九月二十四日から十二月十八日まで 二冊目は大正十二年十二月一日から二十五日まで 墨書による訂正あり 欄外書き込み 上海九華堂寶記製の日記を用う 題簽「排砂日録」の帙に収む

名字索引 一冊一帙 藤澤黄鶴著 藤澤黄鶴筆 LH2/甲187

〔葉数〕七十一葉 (墨付六十九葉)

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕漢字を一画から二十五画に分類し、その漢字を用いる漢語を列挙したもの 童幼のための字引か 送り仮名 振り仮名 書き入れ 題簽「名字索引」の帙

に収む

萬葉集聽講摘録

一冊一帙 藤澤黄坡録 藤澤黄坡筆

LH2/甲188

〔葉数〕十二葉

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕横小本 和文 扉に「明治丙申 萬葉集聽講摘録 黄坡」とあり 題簽「萬葉集聽講摘録」の帙に収む

國語漢文教授法大意

一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲189

〔葉数〕八葉

〔内題・外題〕内題「國語漢文教授法大意」「教案」 外題なし

〔備考〕和文 卷末に「教案」を付す 書き入れ 欄外書き入れ 題簽「國語漢文教授法大意」の帙に収む

講話案

一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲190

〔葉数〕三葉

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔藏書印〕

〔備考〕和文 卷頭に「大正七年十一月一日 木村商店ニ於ケル講話案」「戊申詔書ノ一節」とあり 第二葉表の途中まで筆書き、続きはペン書き 墨書及びペンによる訂正あり 題簽「講話案・戊申詔書ヲ拝シテ」の帙に収む

戦史講話案

二冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲191-1~191-2

〔葉数〕一冊目六十二葉（墨付五十九葉）二冊目十六葉（墨付十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕一冊目の第一葉表に「大正四年十月十日 宇治川戦史講話案」、第十七葉表に「神祖東征紀事」、二十九葉表に「粟津原講話案」、三十七葉表に「山崎戦講

話案」の書き付けあり 第四十五葉のあと「明治四十二年六月十七日 岸和田

中學校談話會講話案」全十八頁（油印）、「三月十日陸軍記念日堺中學校ニ於ケル講話案」全七頁（油印）、「明治二十八年二月二十八日 沙河沿戦闘略記 於教軍場發信」全五頁（油印）を綴じ込む 二冊目は「大阪府立岸和田中學校々友會原稿紙」の藍刷原稿用紙を用い、第一葉冒頭に「於玉手山現地講話案」とあり すべて和文 朱墨による訂正あり 題簽「戦史講話案」の帙に収む

戦術答案

一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲192

〔葉数〕三十五葉（墨付三十四葉）

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔藏書印〕第八葉表に「大阪艦隊區將校團長之印」印

〔備考〕黄坡の陸軍在籍時の戦術答案や軍事関連資料を合綴したもの 朱筆・墨筆・鉛筆・赤鉛筆による書き入れ多数

日本百人一詩

百八十八枚一函 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲193

〔葉数〕百八十八枚

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔藏書印〕

〔備考〕未装丁 邦人の漢詩百首を選び和文で解説したもの ペン書き 昭和十八年稿 大阪朝日新聞連載のコラム「日本百人一詩」の原稿であろう 朝日新聞の当該記事所々に貼り付け 題簽「日本百人一詩」の函に収む

日本百人一詩

一包 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2/甲194

〔葉数〕新聞切り抜き二十枚 罫紙十枚

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕大阪朝日新聞掲載のコラム「日本百人一詩」記事 罫紙には関連漢詩、陶淵明「帰去来の辞」、自作の漢詩などを赤色ペン及び墨書で記す 題簽「日本百

人「詩」の函に収む

浪華儒林傳雜考 一冊 石濱純太郎著 石濱純太郎筆 LH2/甲195

〔葉數〕六葉

〔内題・外題〕内題「浪華儒林傳雜考（一）」書き付け外題「浪華儒林傳雜考」

〔備考〕和文 ペン書き 「泊園」原稿用紙を用う 泊園書院『泊園』第二十二

号（昭和十一年七月五日）掲載「浪華儒林傳雜考（二）」の原稿 朱筆・ペンによる書き入れあり 題簽「大壺文篇」の帙に収む 大壺は石濱の号

讀書隨筆 一冊 石濱純太郎著 石濱純太郎筆 LH2/甲196

〔葉數〕六葉

〔内題・外題〕内題「讀書隨筆」書き付け外題「讀書隨筆」

〔備考〕和文 ペン書き 「泊園」原稿用紙を用う 泊園書院『泊園』第二十二号（昭和十一年七月五日）掲載「讀書隨筆」の原稿 朱筆・ペンによる書き入れあり 題簽「大壺文篇」の帙に収む

漢文を學べ 一冊 石濱純太郎著 石濱純太郎筆 LH2/甲197

〔葉數〕四葉

〔内題・外題〕内題「漢文を學べ」書き付け外題「漢文を學べ」

〔備考〕和文 ペン書き 「泊園」原稿用紙を用う 泊園書院『泊園』第二十二号（昭和十一年七月五日）の巻頭論説「漢文を學べ」の原稿 朱筆・ペンによる書き入れあり 題簽「大壺文篇」の帙に収む

泊園先賢資料索引稿 一冊一帙（ノートブック） LH2/甲198

石濱純太郎著 石濱純太郎筆

〔頁數〕五十八頁（書入れ十四頁）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「中山 城山鼇山先生 詩存」

〔備考〕中山城山・鼇山ら讃岐関連の儒者に関する資料メモ ペン書き 題簽「泊園先賢資料索引稿」の帙に収む

南岳黃鵠黃坡三先生手抄五種叢書 五冊一帙 LH2/甲199-1～199-5

藤澤南岳・黃鵠・黃坡

〔葉數〕一冊目四十六葉 二冊目十八葉 三冊目五十一葉 四冊目六葉 五冊目七葉

〔内題・外題〕一冊目内題・外題なし 二冊目内題「鷄窗餘筆」外題なし 三冊目内題「第一篇 上古史」外題なし 四冊目内題「唐詩選七律講義筆記」外題なし 五冊目内題「育的心理學」外題なし

〔藏書印〕二冊目卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕一冊目は王世貞「文章九命」の逸事題目を掲げ、その出典等の考証を双行注で記す「貧困」「嫌忌」「玷缺」「偃蹇」「流貶」「刑辱」「無終」「無後」に分類 精寫本（南岳筆） 二冊目は内題「鷄窗餘筆」について「釋詁部」とあり、『瀛環志略』を抜粹（南岳筆） 三冊目は支那史で上古から漢初までを述べる（黃鵠筆） 四冊目は「唐詩選七律講義筆記」（黃坡筆） 五冊目は「教育的心理學」（黃坡筆）朱筆・墨筆による書き入れ 題簽「南岳黃鵠黃坡三先生手抄五種叢書」の帙に収む

泊園擷芳集 十三冊三帙 藤澤黃鵠 LH2/甲200-1～200-13

越智宣哲等泊園門人筆

〔葉數〕一冊目九十一葉（墨付六十四葉） 二冊目三十九葉 三冊目四十四葉（墨付二十四葉） 四冊目四十二葉（墨付十五葉） 五冊目四十七葉（墨付十葉） 六冊目四十六葉（墨付四十一葉） 七冊目四十三葉（墨付三十葉） 八冊目四十三葉（墨付三十四葉） 九冊目四十八葉（墨付二十一葉） 十冊目九十一葉（墨付五十葉） 十一冊目四十六葉（墨付二十五葉） 十二冊目三十七葉（墨付三十六葉） 十三冊目三十三葉

〔内題・外題〕内題「泊園擷芳集」 外題「擷芳集」

〔藏書印〕一冊目第二葉表右上に「泊園書院文庫」印 二・三・四・五・六・七冊目巻頭に「泊園書院文庫」印 七冊目第四葉表右上に「泊園書院文庫」印 八冊目第三葉表右上に「泊園書院文庫」印 九冊目第四葉表右上に「泊園書院文庫」印 十冊目第二葉表右上に「泊園書院文庫」印 十一冊目第三葉表右上に「泊園書院文庫」印

〔備考〕一冊目表紙に「擷芳集 詩」、第五十一葉冒頭に「乙丑擷芳集」、第六十一葉冒頭に「己巳擷芳集」、第六十五葉冒頭に「甲午擷芳集」とあり 二冊目書き題簽「擷芳集 詩」一、巻首に「泊園擷芳集卷之二」とあり 三冊目巻首に「泊園擷芳集卷之三」とあり 四冊目表紙に朱筆で「辛巳擷芳集 詩」、巻首に「泊園擷芳集卷之四」とあり 五冊目表紙に「泊園書院 擷芳集 五」、巻首に「泊園擷芳集卷之五」とあり 六冊目表紙に朱筆で「泊園書院 擷芳集 文」とあり 七冊目表紙に「泊園書院 擷芳文集 三」、巻首に「擷芳文集卷之三」とあり 八冊目表紙に「明治十六季正月吉辰 泊園書院 擷芳集」、巻首に「擷芳集」とあり 九冊目表紙に「擷芳集 石」とあり 十冊目表紙に「擷芳集 文」、巻頭に「擷芳集」、第四十六葉冒頭に「己丑擷芳集」とあり 十一冊目表紙に朱筆で「乙酉擷芳集 文」、巻頭に「乙酉擷芳集」、第二十五葉冒頭に「丙戌擷芳集」とあり 十二冊目扉に「先春吟社員 各拜 草稿 乞 斧正」とあり、多く「先春吟社稿本」の藍刷野紙を用う 全体に朱墨による批語・書き入れ多し 題簽「泊園擷芳集」の帙に収む

軸「有心堂」 一幅一箱 藤澤東咳書

〔文字〕「有心堂 藤澤甫」

〔印〕「左書琴右」 「藤澤甫印」 「字元發」

〔備考〕横幅 七・二×二九・五センチ 藤澤黄坡による箱書に「東咳王父真蹟有心堂 横幅」とあり 蓋裏に黄坡の識語、「寄贈 三崎シズ殿 関西大学図書館」のラ

LH2/甲201

ベルあり

軸「新緑」七言絶句 一幅一箱 藤澤東咳書

LH2/甲202

〔文字〕「雨過前林又後林 琉璃洗出幾重陰 世人只道春風好 綠意深於紅意深」

新緑 藤澤甫

〔印〕「藤澤甫印」 「藤澤元發」等三種

〔備考〕五七×二二九センチ 箱書なし

扇面二種 一幅一箱 藤澤東咳・南岳書

LH2/甲203

〔文字〕「文史元非金馬才 且應人世作俳談 幸因去住從王母 偷得春桃六十回」 自壽 有家母在故云／藤澤甫（上面） 「放吟不求和 只伴蕉雨敲 此心與遠 肖 也應息遊戈 子雲何把玄 經筆却爲世人著解嘲／南岳」（下面）

〔印〕「藤甫」「元氏發」等三種（上面） 「藤恆」「君成」等三種（下面）

〔備考〕軸裏に「藤澤王父自壽父解嘲扇面」とあり（黄坡筆力） 東咳扇面は四六×一四五、南岳扇面は五二・五×一四・五 木製の筒に入り、その表書に「王父大人扇面」とあり

軸「題畫」七言絶句 一幅一箱 藤澤南岳書

LH2/甲204

〔文字〕「山徑快雨綿如油 老桧千重夏氣幽 灣水剩侘空豁思 短篷紹棹釣魚舟」

題畫 七十三翁 南岳

〔印〕「字曰君成」「南岳」「文章千古事」

〔備考〕三四・五×一一二七センチ 挟み物小片に「南岳先生 詩 山徑快雨」とあり 箱書に「藤澤東咳先生筆」、蓋裏に「明治十三年三月書之 石田所有」とあり 「寄贈 三崎シズ殿 関西大学図書館」のラベルあり

軸「力行可以貫萬年」七言詩 一幅一箱 藤澤南岳書

LH2/甲205

〔文字〕「力行可以貫萬年 勿以斯文委了然 祖考嘉績存眼前 聖哲法言亦將千

脩身授汝維七篇 愆惠招實在自賢 不蹈弄花淫酒筵 敦厚應護九、仙 揖讓果
能握真權 一家景福竟無邊／疊韵似元章驎 七香齋主人

〔印〕「恆字君成」「七香齋」「凝香」

〔備考〕南岳が他詩に次韻し、子の元（黄鵠）、章（黄坡）、驎（三崎驎之助）に示したものの 二七・五×九二センチ 軸裏に「六十二歳 藤大人似元章驎疊韻」とあり 箱書なし

不苟書室日録 甲部 十冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆 LH2／甲206-1～206-10

〔葉数〕一冊目二十九葉（墨付二十一葉） 二冊目三十一葉（墨付九葉） 三冊目四十一葉（墨付三十九葉） 四冊目四十五葉（墨付三十六葉） 五冊目四十六葉（墨付三十八葉） 六冊目四十六葉（墨付四十四葉） 七冊目四十五葉（墨付二十九葉） 八冊目四十四葉（墨付二十三葉） 九冊目二十二葉（墨付二十葉） 十冊目四十九葉（墨付四十四葉）

〔内題・外題〕内題「不苟書室日録 甲部」書き付け外題「不苟書室日録 甲 一（二）（三）（四）（五）（六）（七）（八）（九）（十）」

〔備考〕漢文による日記 精写本

一冊目 巻首に「日録小引」あり、日記冒頭に「不苟書室日録卷一 甲部」とあり、明治八年四月一日から二十日まで

二冊目 明治九年五月二十九日から七月十七日まで

三冊目 明治九年九月一日から同十年四月三十日まで

四冊目 明治十年五月一日から十二月二十日まで

五冊目 明治十一年一月一日から五月三十一日まで

六冊目 明治十一年六月一日から十二月三十一日まで

七冊目 明治十二年一月一日から五月三十一日まで

八冊目 明治十二年六月一日から十月二十二日まで

九冊目 明治十三年一月一日から五月三十一日まで

十冊目 明治十三年六月一日から十二月三十一日まで

朱点 朱墨による書き入れ多し 六冊目末に名刺あり、表面に「藤澤元造 号黄鵠」、裏面に「東區東平野町五丁目 電話番号南參參壹壹」と印刷 帙なし

不苟書室日録 乙部 七冊 LH2／甲207-1～207-3 207-5～207-8

藤澤南岳録 藤澤南岳筆

〔葉数〕一冊目四十四葉 二冊目四十葉 三冊目四十八葉（墨付四十四葉） 四冊目四十七葉（墨付四十二葉） 五冊目十八葉（墨付十七葉） 六冊目四十七葉（墨付二十葉） 七冊目五十五葉（墨付二十七葉）

〔内題・外題〕内題「不苟書室日録 乙部」書き付け外題「不苟書室日録 乙 一（二）（三）（五）（六）（七）（八）」

〔備考〕漢文による日記 巻四を欠く 精写本

一冊目 巻首に「不苟書室日録卷之一 乙部」とあり、明治十四年一月一日から五月三十一日まで

二冊目 巻首に「不苟書室日録卷之二」とあり、明治十四年六月一日から十二月三十一日まで

三冊目 巻首に「不苟書室日録卷之三」とあり、明治十五年一月一日から六月三十日まで

四冊目 巻首に「不苟書室日録卷之五」とあり、明治十五年十月一日から同十六年六月三十日まで

五冊目 巻首に「不苟書室日録卷之六」とあり、明治十六年七月一日から十月六日まで

六冊目 巻首に「不苟書室日録卷之七」とあり、明治十七年一月一日から五月二十二日まで

七冊目 巻首に「不苟書室日録卷之八」とあり、明治十七年七月一日から同十八年二月十五日まで

墨筆による欄外書き入れあり 帙なし

七香齋日録 丙・丁・戊 三冊 藤澤南岳録

LH2/甲208-3~208-5

藤澤南岳筆

〔葉数〕一冊目三十一葉（墨付二十五葉） 二冊目二十九葉 三冊目十二葉（墨付十一葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋日録 丙（丁）（戊）」書き付け外題「七香齋日録 丙（丁）（戊）」

〔備考〕漢文による日記 精写本

一冊目 巻首に「七香齋日録 丙」とあり、明治二十四年十月十一日から十二月三十一日まで

二冊目 巻首に「七香齋日録 丁」とあり、明治二十五年一月一日から五月三十一日まで

三冊目 巻首に「七香齋日録 戊」とあり、明治二十六年一月一日から三月十一日まで

墨筆による欄外書き入れあり 帙なし

七香齋日録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲209

〔葉数〕五十六葉（墨付二十九葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋日録 一」書き付け外題「七香齋日録 一」

〔備考〕漢文による日記 精写本

巻首に「七香齋日録卷之一」とあり、明治二十六年九月一日から十二月三十一日まで

第二十五葉冒頭に「七香齋日録卷之二」とあり、明治二十七年一月一日から十二月日まで

末尾二葉に「備忘手録」を附す 墨筆による欄外書き入れ 帙なし

七香齋日録 戊 五冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲210-1~210-5

〔葉数〕一冊目七十三葉（墨付三十八葉） 二冊目五十二葉（墨付五十葉） 三冊目

五十五葉 四冊目三十九葉（墨付三十八葉） 五冊目五十八葉（墨付二十九葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋日録」書き付け外題「七香齋日録 一（二）（三）（四）（五）」

〔備考〕漢文による日記 精写本

一冊目 外題に「七香齋日録 戊一」、巻首に「七香齋日録」とあり、明治二十七年十二月二十二日から同二十八年十月二十五日まで、末尾に友人・門人の名を記す

二冊目 外題に「七香齋日録 二」とあり、明治二十八年十一月一日から同二十九年八月三十一日まで

三冊目 外題に「七香齋日録 三」とあり、明治二十九年九月一日から同三十年三月三十一日まで

四冊目 外題に「七香齋日録 四」とあり、明治三十年四月一日から八月三十一日まで

五冊目 外題に「七香齋日録 五」とあり、明治三十年九月一日から同三十一年二月十七日まで

墨筆による欄外書き入れあり 帙なし

七香齋日録 己 十冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲211-1~211-10

〔葉数〕一冊目七十三葉（墨付三十八葉） 二冊目五十二葉（墨付五十葉） 三冊目

五十五葉 四冊目三十九葉（墨付三十八葉） 五冊目五十八葉（墨付二十九葉） 六冊目三十八葉（墨付三十六葉） 七冊目四十二葉 八冊目五十葉（墨付四十七葉） 九冊目四十三葉（墨付三十五葉） 十冊目五十四葉（墨付四十六葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋日録 己號」書き付け外題「七香齋日録 一 己（二）

（三）（四）（五）（六）（七）（八）（九）（十）」

〔備考〕漢文による日記 精写本

一冊目 外題に「七香齋日録 一 己」、巻首に「七香齋日録卷一 己號」とあり、明治三十三年八月二十五日から十月三十一日まで

二冊目 外題に「七香齋日録 二」、巻首に「七香齋日録卷二」とあり、明治三十四年二月一日冒頭に「七香齋日録卷三」とあり、明治三十三年十一月一日から同三十四年三月三十一日まで

三冊目 外題に「七香齋日録 三」、巻首に「七香齋日録卷四」とあり、明治三十四年四月一日から八月七日まで

四冊目 外題に「七香齋日録 四」、巻首に「七香齋日録卷五」とあり、明治三十四年八月八日から同三十五年一月三十一日まで

五冊目 外題に「七香齋日録 五」、巻首に「七香齋日録卷六」とあり、明治三十五年二月一日から六月五日まで

六冊目 外題に「七香齋日録 六」、巻首に「七香齋日録卷七」とあり、明治三十五年六月六日から十月三十一日まで

七冊目 外題に「七香齋日録 七」、巻首に「七香齋日録卷八」とあり、明治三十五年十一月一日から同三十六年三月三十一日まで

八冊目 外題に「七香齋日録 八」、巻首に「七香齋日録卷九」とあり、明治三十六年四月一日から八月二十二日まで、第八葉袋とじ内に墨筆による覚書あり（日付は二十四日から三十一日まで）

九冊目 外題に「七香齋日録 九」、巻首に「七香齋日録卷十」とあり、明治三十六年八月二十三日から同二十七年二月四日まで、第二十三葉裏と第二十四葉表の間に墨筆による覚書あり（挟み物、日付は十三日から三十日まで）

十冊目 外題に「七香齋日録 十」、巻首に「七香齋日録卷十一」、六月一日冒頭に「七香齋日録卷十二」とあり、明治三十七年二月五日から九月九日まで

第二十三葉裏と第二十四葉表の間に墨筆による日記覚書あり（挟み物、日付は十三日から三十一日まで）、第二十九葉裏と第三十葉表の間に墨筆による日記覚書あり（挟み物、日付は八月一日から二十七日まで）、第四十葉裏と第四十一葉表の間に墨筆による日記覚書あり（挟み物、五日から三十一日まで）

墨筆による欄外書き入れあり 帙なし

七香齋日録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲212-1

〔葉数〕六十八葉（墨付二十五葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋日録」書き付け外題「七香齋日録」

〔備考〕漢文による日記 精写本

巻頭に「七香齋日録卷之一」とあり 明治三十九年九月一日から十一月十一日まで 第十五葉は短文「考古雜徵」、第十六葉から第二十六葉までは学者文人の没年を記した覚書で、宝永より大正まであり

七香齋日録 乙部 附年中行事稿本 一冊 藤澤南岳録

LH2/甲213-1

藤澤南岳筆

〔葉数〕七香齋日録二十葉 年中行事稿本三十九葉（墨付二十八葉）

〔内題・外題〕内題「七香齋日録」「年中行事稿本」書き付け外題「年中行事稿

七香齋日録 一」

〔備考〕漢文による日記 精写本

巻首に「七香齋日録卷一 乙部」とあり、明治四十年二月五日から四月十六日まで記す 後半が「年中行事稿本」 帙なし

不苟書室日録 十冊 藤澤南岳録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲214-1～214-10

〔葉数〕一冊目五十四葉 二冊目三十八葉 三冊目八十四葉 四冊目二十六葉 五

冊目七十一葉 六冊目五十二葉 七冊目七十一葉 八冊目三十二葉 九冊目百

二十一葉 十冊目六十八葉

〔内題・外題〕内題「不苟書室日録」書き付け外題「日録 一（一）（二）（三）（四）

（五）（六）（七）（八）（九）（十）」

〔備考〕漢文による日記 精写本

一冊目 表紙に「日録 起明治八年 迄十四年 一」とあり

二冊目 表紙に「日録 起十五年 迄十七年 二」とあり

三冊目 表紙に「日録 起二十四年 迄二十九年 三」とあり

四冊目 表紙に「日録 明治三十年 四」とあり
五冊目 表紙に「日録 起三十三年 五」とあり
六冊目 表紙に「日録 起三十四年 六」とあり
七冊目 表紙に「日録 起三十五年 七」とあり
八冊目 表紙に「日録 起四十年 迄四十一年 八」とあり
九冊目 表紙に「日録 起四十二年 迄大正五年 九」とあり
十冊目 表紙に「日録 起大正五年 迄大正九年 十」とあり
南岳の日記(『不苟書室日録』『七香齋日録』『七香齋日程』からの抜書き 巻頭に「不苟書室日録小引」があり、大正十年刊の『不苟書室日録鈔』巻頭所載の「小引」と同文であるところから、『不苟書室日録鈔』の草稿であろう
墨筆による書き入れあり 帙なし

日録 一冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆 LH2/甲215

〔葉数〕六十二葉(墨付三十六葉)

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「日録」

〔備考〕漢文による日記

大正八年一月一日から八月十二日まで 墨筆による訂正あり 冒頭に油印の「西藏学会入会申込書」を挟む 西藏学会は石濱純太郎が昭和二十八年に設立
帙なし

日録 一綴 藤澤南岳録 藤澤南岳筆 LH2/甲216

〔葉数〕十五葉(墨付六葉)

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕仮綴じ 南岳による漢文日記の草稿 五月二十一日から六月二日まで 帙なし

日録 一綴 藤澤南岳録 藤澤南岳筆 LH2/甲217

〔葉数〕七葉(墨付五葉)

〔内題・外題〕内題なし 外題なし

〔備考〕仮綴じ 南岳による日記の草稿 漢文 十月二十七日から三十一日まで 十月一日から六日まで ついで人名の覚書あり 帙なし

七香齋日程 庚・辛 十八冊 藤澤南岳筆 LH2/甲218-1~218-18

藤澤南岳筆

〔葉数〕一冊目五十二葉 二冊目五十八葉 三冊目六十八葉(墨付四十一葉) 四冊目九十三葉(墨付五十葉) 五冊目五十五葉(墨付三十七葉) 六冊目四十八葉 七冊目八十一葉(墨付七十七葉) 八冊目六十八葉(墨付二十七葉) 九冊目六十三葉(墨付五十二葉) 十冊目五十五葉(墨付五十三葉) 十一冊目九十四葉(墨付四十三葉) 十二冊目三十九葉(墨付三十七葉) 十三冊目四十六葉(墨付三十二葉) 十四冊目五十三葉(墨付四十四葉) 十五冊目三十葉 十六冊目五十葉(墨付十六葉) 十七冊目四十一葉(墨付二十五葉) 十八冊目四十三葉(墨付五葉)

〔内題・外題〕内題「七香齋日程 庚」 書き付け外題「七香齋日程 一(一)(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)(十一)(十二)(十三)(十四)(十五)(十六)(十七)(十八)」

〔備考〕漢文による日記 精写本

一冊目 外題に「七香齋日程 一」とあり、巻首に「七香齋日程卷一 庚 南岳手録」(南岳手録の語は以下、同じ)、明治四十一年一月一日冒頭に「七香齋日程卷二」とあり、明治四十年九月八日から同四十一年三月三十一日まで二冊目 外題に「七香齋日程 二」、巻首に「七香齋日程卷三」とあり、明治四十一年四月一日から十二月三十一日まで

三冊目 外題に「七香齋日程 三」、巻首に「七香齋日程卷四、己酉六月一日冒頭に「七香齋日程卷五」とあり、明治四十二年一月一日から七月十日まで

四冊目 外題に「七香齋日程 四」、巻首に「七香齋日程卷六」、明治己酉季冬一日冒頭に「七香齋日程卷七」とあり、明治四十二年八月一日から同四十三年四月十六日まで

五冊目 外題に「七香齋日程 五」、巻首に「七香齋日程卷八」とあり、明治四十三年五月一日から十一月二十三日まで

六冊目 外題に「七香齋日程 六」、巻首に「七香齋日程卷九」とあり、明治四十四年一月一日から十月十六日まで

七冊目 外題に「七香齋日程 七」、巻首に「七香齋日程卷十」、壬子仲夏一日冒頭に「七香齋日程卷十一」とあり、明治四十四年十月七日から大正元年十一月三十一日まで

八冊目 外題に「七香齋日程 八」、巻首に「七香齋日程卷十二」とあり、大正二年一月一日から七月十日まで

九冊目 外題に「七香齋日程 九」、巻首に「七香齋日程卷十三」、甲寅孟春一日冒頭に「七香齋日程卷十四」とあり、大正二年八月一日から同三年七月三十一日まで

十冊目 外題に「七香齋日程 十」、巻首に「七香齋日程卷十五」とあり、大正三年八月一日から同四年六月三十日まで

十一冊目 外題に「七香齋日程 十一」、巻首に「七香齋日程卷十五」、丙辰孟夏初一日冒頭に「七香齋日程卷十六」とあり、大正四年七月一日から同五年五月三日まで

十二冊目 外題に「七香齋日程十二」、巻首に「七香齋日程卷十七」とあり、大正五年六月一日から同六年二月二十八日まで

十三冊目 外題に「七香齋日程十三」、巻首に「七香齋日程卷十八 辛」とあり、大正六年三月一日から九月三十日まで

十四冊目 外題に「七香齋日程 十四」、巻首に「七香齋日程卷十九 辛」、戊午仲春一日冒頭に「七香齋日程卷二十 辛」とあり、大正六年十月一日から大正七年六月三十日まで

十五冊目 外題に「七香齋日程 十五」、巻首に「七香齋日程卷二十一 辛」とあり、大正七年七月一日から同八年一月三十一日まで

十六冊目 外題に「七香齋日程 十六」、巻首に「七香齋日程卷二十二 辛」とあり、大正八年二月一日から五月五日まで

十七冊目 外題に「七香齋日程 十七」、巻首に「七香齋日程卷二十三 辛」とあり、大正八年六月八日から十二月二十二日まで

十八冊目 外題に「七香齋日程 十八」、巻首に「七香齋日程卷二十四 辛」とあり、大正八年十二月二十三日から大正九年一月十二日まで
墨筆による書き入れあり 舛なし

〔挟みもの〕

二冊目 第三十三葉の袋とじの中に「八幡神則」に始まる文の挟み物あり
五冊目 第十六葉裏と第十七葉表の間に「寺門静軒」について記した挟み物あり、「明治四十三年七月」の日付

七冊目 第三十三葉の袋とじの中に「君諱廣耕小字土次郎姓大熊氏」に始まる挟み物あり 第五十七葉の袋とじの中に「小山村八幡神祠舊址碑」挟み物ものあり、「白鷗吟社」の藍刷原稿用紙を用う、「明治壬子七月」の日付

八冊目 第二十八葉裏と第二十九葉表の間に挟み物六枚あり、すなわち「子期後集」および（六月）十一日から七月十日までの日記覚書

九冊目 第五十三葉の袋とじの中に「拝又各自散去」に始まる挟み物あり、日記の草稿であろう

十冊目 第三十一葉の袋とじの中に署名「七香子」の七言律詩の挟み物あり
十一冊目 第二十葉の袋とじの中に小片の挟み物あり

十三冊目 第二十三葉裏と第二十四葉表の間に日記覚書の挟み物あり、五日から十七日までの日記覚書

十四冊目 第十四葉の袋とじの中に「七香齋」「香翁」「文教真君」等の文字を含む橙色の挟み物あり、南岳の号を列挙した覚書か 第十八葉の袋とじの中に挟み物あり、「香翁」などの号を列挙したあと（十月）十三日から十一月一

日までの日記覚書 第五十二葉の袋とじの中に「文教真君」と記し、四つの図を附した小片の挟み物あり

十七冊目 第二十七葉裏と第二十八葉表の間に「遊大鳴山記」と題する文の挟み物二枚あり、朱墨の書き入れあり

文庫書目稿 一冊 藤澤南岳等録 藤澤南岳等筆

LH2/甲219

〔頁数〕九十八頁（墨付八十五頁）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「文庫書目稿」

〔備考〕装訂は洋装 泊園書院所蔵の書籍を五十音順に列挙し、甲から癸の十類に分類したうえで冊数と整理番号を記す 朱筆・墨筆・鉛筆書きによる書き入れ多し 帙なし

泊園藏書目 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/甲220

〔頁数〕二百十頁（墨付四十四頁）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「泊園藏書目」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕装訂は洋装 泊園書院所蔵の書籍を甲から癸の十類に分類したうえで冊数を附す「朱文公文集」から「文文山集」に至る書目の挟み物二枚あり 裏表紙に「七香齋手録」の書き付け 帙なし

泊園圖書目録 付物夫子著述書目補記 一冊 編者・抄写者未詳 LH2/甲221

〔葉数〕四十五葉

〔内題・外題〕内題なし 外題「泊園圖書目録」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕泊園書院所蔵と思われる書籍の詳しい目録「物夫子著述書目補記」（四葉）は宇恵（宇佐美瀉水）著 帙なし

泊園藏書目録 一冊 編者・抄写者未詳 LH2/甲222

〔葉数〕二十七葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「泊園藏書目録」

〔備考〕横本 泊園書院所蔵の書籍目録 表紙に「明治己丑校」とあり 甲から壬までの九類に分かつ 朱墨による書き入れ多し 帙なし

大正三年晩夏新調書匣一覧 一冊 編者・抄写者未詳 LH2/甲223

〔葉数〕三十九葉（墨付二十八葉）

〔内題・外題〕内題「大正元年晩夏新調書匣一覧」 外題なし

〔備考〕横小本 甲から壬に分かつ書名と冊数を記す 表紙に「此帳簿附込期限 明治 年 月ヨリ 明治 年 月マデ 満 年 紙員小口 葉」とあり 朱墨による書き入れあり 帙なし

泊園藏書目録 一冊 編者・抄写者未詳 LH2/甲224

〔葉数〕二十六葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「泊園藏書目録」

〔備考〕横本 泊園書院所蔵の書籍目録 表紙に「明治己丑校」とあり 甲から癸までの十類に分かつ 裏表紙にも墨付き 朱墨による書き入れ多し 帙なし

関西大学泊園文庫
自筆稿本目録稿（甲部）

発行日 2012年 3 月31日

編 集 関西大学アジア文化研究センター
吾 妻 重 二

発 行 © 関西大学アジア文化研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

印 刷 株式会社 遊文舎

